

平成26年度文部科学省委託事業

「公民館等を中心とした社会教育活性化支援プログラム」

行動人連携学習プログラム開発事業

知と行動が結び付いた循環型社会構築に向けた
公民館事業及び運営の在り方に関する調査研究

調査研究報告書



秋田県生涯学習センター

はじめに

「秋田県生涯学習ビジョン」（平成23年）では、県の目指す姿を「知と行動が結び付いたクリエイティブな循環型社会」とし、その担い手として全ての県民が学びの成果を行動に生かす「行動人」（こうどうびと）になることを掲げている。

これを受け昨年度は、公民館における学習の成果を生かす講座や取組の状況と公民館利用者の意識について調査を行った。公民館調査では個人の要望に応じる分野はよく取り組まれているものの、社会の要請に応じる現代的な課題の解決や、地域の活性化に向けた分野での取組の割合が低いことが確認できた。これに対して利用者の意識調査では、学習の成果を地域課題の解決や活性化に向けた活動、ボランティアなど人の役に立つ活動等に生かしたいと考えたり、そのような活動が必要だと捉えたりしている人の割合は7割を超える結果となった。また、「行動人」の意味や内容を知っている人は2割程度にとどまり、言葉だけ知っている人まで含めても4割程度しかいないことが明らかになった。

調査と並行して、平成25年度文部科学省「公民館等を中心とした社会教育活性化支援プログラム」の委託を受け、実践研究として「行動人連携学習プログラム開発事業」に取り組んだ。羽後町堀回地区において試作した学習プログラム「堀回再生プロジェクト」では、地域住民が公民館や当センターの機能を活用し、人材育成と地域活性化を図る学習や事業を創出していく事例を提示できた。

このような調査や実践から、秋田県生涯学習ビジョンの実現には、市町村や公民館の啓発を図り、行政と地域住民との協働による地域の生涯学習・社会教育の推進が必要であると考え、今年度は、更なる実践開発と具体的な事例の収集・提示を進めることとした。また、広く県民に向けた情報発信や広報も継続することとした。

幸いにも、今年度も文部科学省の委託を受け「行動人連携学習プログラム開発事業」を継続することとなり、県内3地域で実践開発に取り組むことができた。能代市では、まちおこしNPOと市民活動支援センターとの連携により、高校生を中心とした若者によるまちおこしの学習プログラムを開発した。由利本荘市では、西目公民館と連携しボランティアの養成と活用を図るプログラムを開発した。羽後町では昨年の事業に続き地域の学びを通してコミュニティの活性化を図るプログラムを開発した。

また、今年度初めて「行動人交流集会」を開いた。交流集会では、市町村関係職員に加え行動人として紹介した方々にも参加を呼びかけところ、総勢250名を超える参加希望があった。行動人連携学習プログラム3実践を通しての事例研究と協議、行動人の活動展示と情報交換などを行い有意義な会となった。

事例収集では、昨年の公民館調査で取組の割合が低かった5分野の講座や取組の中から、参考にしたい実践例を厳選し追調査した。公民館や利用者の実情に合わせながら工夫して展開されている事例である。全17施設から協力をいただいた情報を再構成し第3章に収録したので、是非参考にして、新規事業を組んだり既存の事業に要素を取り入れたりするなど活用をしていただきたい。

行動人の広報活動においても成果が見られた。リーフレットの配布や市町村での事業説明などを行ってきた結果、ウェブサイトの利用者が増加し、昨年以上に市町村からの行動人の紹介が増えるなど、行動人に対する認知の広がりが見えはじめている。

本報告書は、これらの取組の実践報告、公民館等の特色ある取組事例、成果と課題の分析等で編集した。現状の理解とそれを踏まえた事業立案の際に役立てていただければ幸いである。

もくじ

はじめに

もくじ

第1章	事業の概要	-	1
第2章	行動人連携学習プログラムの開発と実践		
1	行動人連携学習プログラムとは		2
2	能代市での実践開発		3
3	由利本荘市での実践開発		10
4	羽後町での実践開発		17
5	行動人交流集会		24
6	行動人の情報収集・発信から人材活用へ		27
第3章	県内公民館の特色ある取組追調査		
I	地域課題や現代的課題の解決につながる講座や取組		
・鹿角市十和田市民センター	市民のチカラ事業「鹿角観光いろはカルタ」<十和田版>	28	
・五城目町中央公民館	高齢者学級事業「率浦（いそうら）大学」	30	
・北秋田市中央公民館	公民館による「おらほの地域応援し隊プログラム2014」 “Gちゃんサミット” in 北秋田市	32	
II	ボランティアや指導者養成、地域づくりへの参画など人材養成につながる講座や取組		
・横手市栄公民館	お気楽ものづくりサロン	34	
・由利本荘市中央公民館	大学生が教える家庭教育講座「夏休み親子体験入学」	36	
・能代市中央公民館	高校生ボランティア育成講座	38	
III	子育てや家庭教育につながる講座や取組		
・美郷町公民館	家庭教育講座	40	
・秋田市河辺市民サービスセンター	親子体験まるごと塾	42	
・大潟村公民館	家庭教育学級（乳幼児編）・（小中高編）	44	
・横手市朝倉公民館	あいあい☆広場	46	
IV	職業やキャリア開発につながる講座や取組		
・秋田市勤労青少年ホーム	自己プレゼンス講座「自分を上手にPR！」 印象に残る自己プレゼンス	48	
・秋田市女性学習センター	コミュニケーション女性学級関連講座	50	
・潟上市昭和公民館	夏休み中学生ボランティア	52	
V	ITの活用につながる講座や取組		
・にかほ市金浦公民館	パソコン講座 はじめましょう！1・2・3！（初級編・活用編）	54	
・湯沢市湯沢公民館	初級者パソコン講座（ワード編・エクセル編）	56	
・仙北市田沢湖公民館	パソコン教室	58	
・北秋田市沢口公民館	パソコン講座	60	
第4章	事業の成果と課題		62
おわりに			

第1章 事業の概要

趣 旨

平成18年に教育基本法が改正され、生涯学習の理念が初めて明示された。これを受けた県では、平成23年9月に「秋田県生涯学習ビジョン」を策定し、「知と行動が結び付いたクリエイティブな循環型社会」の実現を目指すこととした。その第一歩となるのは、学んだことを行動に生かす「行動人」の育成であり、本県生涯学習の目指す人間像として「全ての県民が行動人になる」ことを掲げ、気運の醸成と環境づくりを進めている。

そのため当センターでは、地域に密着した公民館レベルでの実践の推進が必要と捉え、市町村の生涯学習・社会教育担当職員や生涯学習奨励員等を対象に基礎講座、実践講座などで講義、演習等を行い、学習の成果を生かす事業を推奨したり、地域の人材育成や地域課題解決のための取組を奨励したりしてきた。これに加え昨年度は、文部科学省より平成25年度「公民館等を中心とした社会教育活性化プログラム」の委託を受け、「行動人連携学習プログラム開発事業」を展開し、次のような取組を行った。

- ・公民館及び公民館利用者の実態調査と結果活用
- ・行動人連携学習プログラムの開発、実施（羽後町）
- ・行動人の広報、啓発

今年度も、引き続き文部科学省の委託を受け上記事業を行う。特に成果が見られた行動人連携学習プログラムの開発と実践は、複数の地域で展開し定着を図るとともに、参考事例として市町村に発信していく。また、昨年度の公民館調査で課題となった、講座の内容による偏りに着目し、取組が少ない分野での実践例を追調査し、参考事例として紹介していく。さらに、Webサイトでの行動人の紹介により情報発信に努めるとともに「行動人交流集会」を開催し、行動人や生涯学習・社会教育関係者相互のネットワーク構築と拡充を図る。

実施内容

1 行動人連携学習プログラムの開発と実施

①能代市

まちおこしNPO、能代市市民活動支援センターとの連携により、「若者によるまちおこし」を学び実践するプログラムを開発し、若者の地域活性化のアイディアと実際に地域活動をしている大人の力との協働を創出する。

②由利本荘市

西目公民館との協働により、公民館事業を支援するボランティアを養成するプログラムを開発し、住民参画による公民館事業の活性化を図る。

③羽後町

堀回地区コミュニティ推進委員会、元西公民館との連携により、地域の歴史や文化を学ぶプログラムを開発し、行動人のスキルアップと住民協働によるコミュニティの活性化を図る。

2 特色ある公民館事例の追調査

昨年度の公民館調査で寄せられた特色ある事例について追調査し、事業趣旨、展開、成果などをまとめ紹介する。

3 行動人交流集会の実施

行動人連携学習プログラムの実践報告、行動人の取組の紹介を行う。市町村の生涯学習や社会教育関係者に加え、行動人にも広く参加を呼びかけ相互交流を図る。

4 県内の「行動人」の情報収集・発信

「行動人」の取材、ウェブサイトへの掲載、「行動人」リーフレットによる周知等の広報活動を行う。

第2章 行動人連携学習プログラムの開発と実践

1 行動人連携学習プログラムとは

行動人連携学習プログラムとは、「行動人」の育成と現代的・社会的課題に対応する学習の推進を目指して、県生涯学習センター・市町村公民館等施設・行動人がそれぞれの特色や強みを生かし協働・連携して「行動人を育成する学習」「地域を活性化する学習」などを開発する事業である。それぞれの役割の概要は図1のとおりであるが、市町村公民館等施設や行動人が主体的に活動し事業展開できるように当センターが支援する形で進めてきた。

また、昨年度、県内の公民館等で行われている、学びを行動に生かすことを意識した取組や、当センター主催地域マイスター養成講座を基に、図2のような「基本となる学習モデル」を作成した。

まず、行動人、市町村公民館等施設、当センターで「基本となる学習モデル」に基づいて学習プログラムの趣旨や内容を構想・立案する「企画研修会議」を行う。次に、実際にその内容に沿って学習活動を展開する。「活動の基本となる学習」では、参加者の実践につながるような講話を聞いたり取組を行ったりする。「実践的な学習・活動」では、主に「活動の基本となる学習」で学んだ内容を生かす活動をする。関連団体の活動の中に加わり生かしていくことも考えられる。さらに、学習プログラムを通じて得たスキルを生かし、学びを広げたり深めたりする場を自ら提供する立場となったり、他への支援を行ったりするなど「人材として活動」していくことができるようとする。

これらを基に昨年度は、羽後町をモデルとして実践開発を行ったが、今年度はさらに、能代市、由利本荘市を加え、計3事例の実践を進めてきた。県北・県南・中央という地域性はもとより、連携対象、主体、趣旨、学習内容など、それぞれ多様なモデルの開発をねらった。

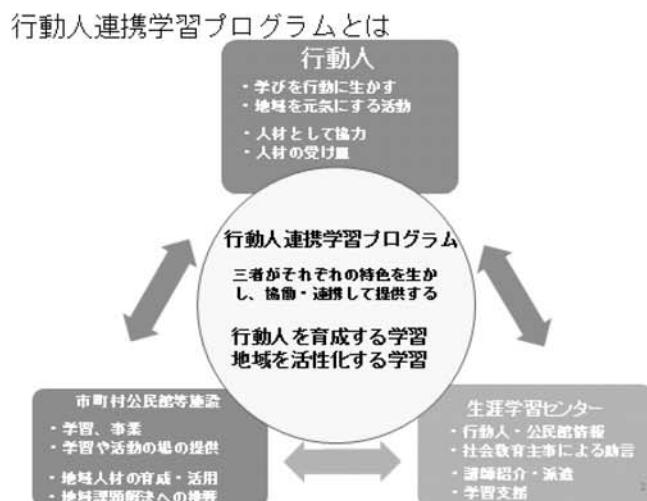


図1 行動人連携学習プログラムのイメージ

基本となる学習モデル



図2 基本となる学習モデル

2 能代市での実践開発

(1) 連携対象

行動人 … まちおこしN P O 「オモシエナ」

市町村公民館等施設 … 能代市市民活動支援センター

「オモシエナ」は、県北部の山本郡八峰町を中心に、秋田県を元気にしようと活動している若者の団体である。地域資源の再認識と保全という立場で、観光をテーマにしたワークショップ、過去に開催されていたイベントの復活、観光資源となるポイントの清掃活動などを実施している。また、イベントのスタッフやコーディネーターなどを通じて、他団体との連携も積極的に行っている。

能代市市民活動支援センターは、自主的な市民活動を支援することを目的に開設されている市の運営受託団体である。市民と市民活動団体、行政をつなぎ、お互いの連携・交流・協働の促進の支援を行っている。また、講座やイベントの開催を通じて市民活動の発展に努めている。

「オモシエナ」に対しては、連携学習プログラムによる実践を通じさらなる能代山本地域の活性化や団体そのものの資質向上を図るべく、当事業への参加を打診したところ、快諾を得た。また、活動場所の確保や地域関係団体（N P O等）への声かけなどは活動を展開する上で重要だと考え、それらの対応のノウハウをもつ能代市市民活動支援センターに共催を依頼した。

(2) プログラムのねらい

将来を担う高校生などの若者を中心に、講演会・ワークショップを通して、先進事例の学習や意見交換を行い、実践活動につなげることで地域活性化を図る。またプログラムで得たスキルや人材を生かして今後も地域で主体的に行動する人材を育成する。

(3) 実践の概要

事業の実践に先立ち、連携三者で企画研修会議を行い（10月5日）、「オモシエナ」や当センターの原案をもとに意見交換や共通理解を図った。その中で決定した事業内容の概要是以下の通りである。

- ①講演会と参加者によるワークショップの開催
- ②参加者によるワークショップ（①の内容を参考にしたより具体的なもの 2回）
- ③参加者による実践活動（①・②のワークショップから具現化されたもの）

会議では、更に各事業の日程や内容、役割などを具体的に決め、それらを基に①の準備を進めた。その他必要に応じて、メールや電話、打合せ会議（10月18日）で三者が確認を取り合った。

①講演会と参加者によるワークショップ（まちづくり講演会×ワークショップ「マチコラボ」）

日 時 平成26年11月30日（日）午前10時～午後3時

会 場 能代市中央公民館 第5研修室・視聴覚室

参加者 高校生43名、一般10名、主催・共催10名

高校生の参加については、当センター職員がチラシを作成し、能代市内の県立高校5校を訪問し、担当者に生徒への配付を依頼したところ、生徒会・J R C・部活

動単位の生徒の参加協力を得た。また一般参加者については、能代市市民活動支援センターが能代山本地域の市民活動団体等に広報を行い、参加を呼びかけた。

内 容

○講 演

講師として、女子高校生が自治体改革を担う「鰐江市役所JK課」など、新しい働き方や組織づくりを模索・提案する実験的プログラムや広報プロジェクトを多数企画・実施している、若新雄純氏を招き、「『ゆるい市民』からの変革～福井県鰐江市JK課からマナブ～」という演題で話していただいた。

その中で、若者（高校生）がまちづくりに参画する際の視点について「ゆるい（=あまり「まちづくり」に関心のない、進んで興味をもたない）市民の、日常的で人それぞれの発想が重要である」「一見どうでもよさそうなおしゃべりの中に未来の暮らしのヒントがある」「楽しみながら小さな変化をたくさんつくることが大事である」「まず自分たちで意見を出すことが大切である。その過程でどうしても自分たちでできないことについて、その道に明るい人に協力していただいたり一緒に悩んでいただいたらしくればよい（大人は使える友達）」などが挙げられた。

参加者からは「まちづくりや地域活性化について考えるときもゆるくみんなが楽しめる形で考えていかなければと感じました」「大人も分からないうることがあること、悩んでいることが分かりました」「高校生ももっと自由に発言していいのかなと感じました」「私たちの発言で能代を変えることができればうれしいことだと思います」等の意見があり、まちづくり参画へ向けての参加者の意識高揚につながった。



若新氏の講演



講師と参加者の交流

○ワークショップ

「マチにほしい、こんなモノ」をテーマに「オモシエナ」が進行した。

初めに、進行役から参加者全体に向けて活動の流れの説明とグループ編成（1グループ一般1～2人、高校生5～6人、8グループ）を行い、グループごとの活動に入った。

事前に一般参加者と打合せをし、グループ活動でのコーディネーターの役割をして



一般参加者との打合せ

もらった。講演の話題にも挙がっていたが、特に高校生が「ゆるい」気持ちで発想し意見を述べることができるように配慮した。アイスブレークを通して話しやすい雰囲気になったところで、自己紹介、テーマを基にした話し合い、付箋や模造紙を使ったまとめと活動が進んだ。

意見がまとまったところで、全員で集まり、各グループから全体に向けて成果の発表が行われた。「ディズニーランドがあればいい」「有名人が来るといい」など多くの意見の提案があったが、どのようにしたら手に入れられるか、実現できるか、どんな人と協働するかなど、現実的な方策にはなかなかつながらなかった。

参加者からは、「他の学校の方や大人の方と、地元について楽しく話すことができました」「初めは少し戸惑った部分もありましたが、もっと話したかったと思いました」「自分には考えられないような意見を聞くことができました」「高校生の柔軟な発想にふれ、とてもいい刺激になった」等の意見があり、参加者の交流と今後の活動に向けての意欲付けとなった。



グループでの話し合い



発表

②参加者によるワークショップの開催

○まちづくり高校生ワークショップ「マチコラボ」①

日 時 平成26年12月14日（日）午前10時～12時

会 場 能代市中央公民館 第5研修室・視聴覚室

参 加 者 高校生35名、一般1名、主催・共催6名

内 容

①のワークショップでの参加者の反応をもとに、「まちづくり」について関心を深め、より実践につなげるためのワークショップを行った。「オモシエナ」が進行役を務めた。

初めての参加者がいたこと、前回の内容からより具体的な活動につながる話し合いを展開したいという目的で、「オモシエナ」代表が参加者全体に向けて、前回の振り返りと感想の共有、今回の活動内容についての話題提供をした。

次に、グループに分かれ、ワークショップを行った。高校生については、各校の所属（生徒会、JRC、部活動）ごとの8グループを編成し、各自「ゆるい」気持ちで話し合えるよう配慮した。一般参加者や主催・共催者は隨時グループに入り、話し合いの活性化に努めた。

話し合いの内容は、次の通りである。

- ・活動内容をみつめよう（どんな活動をしているか、したいか）
- ・課題を挙げる（活動の中での悩み）

・使える大人の友達を挙げる（こんな大人がいてくれたら）

「新たな商品を開発する」「学校祭を充実させる」など、身近な課題・やってみたいことを中心に多様な意見が出され、協働したい大人については「学校の先生」「地域の大人」、中には「地域の市民活動団体」を挙げるグループもあった。

参加者アンケートでは、「同じ学校（所属）同士の話合いで、自分たちに大きく関わることを具体的・現実的に話し合うことができた」「商品を売ったり作ったりする分野に関しての知識がないので他校の意見が参考になった」「自分たちのやりたいことを実現するためには何ができるか、何をすべきなのか発見することができた」「課題を解決するためいろいろな人が必要になってくるので、自分たちができることを考え、伝えていきたい」「このような機会が毎年あるといいなと思った」「やりたいことが地域の方々との協力で実現できるかもしれない『マチコラボ』はすごいと改めて思った」などの意見があり、実践に向けてステップアップしている様子が伺えた。



前回の振り返りと今回の内容の説明



グループでの話し合い



意見のまとめ



発表

○まちづくり高校生ワークショップ「マチコラボ」②

日 時 平成27年1月25日（日）午前10時～12時

会 場 能代市中央公民館 第5研修室・視聴覚室

参 加 者 高校生22名、一般6名、主催・共催8名

内 容

「まちづくり高校生ワークショップ『マチコラボ』」①では、高校生同士の話し合いが中

心だったが、1回目と比べて自分たちの目指す事柄や方策、大人との協働について具体的な意見も提案された。そこで、今回のワークショップでは、再び地域の大人を迎へ、より実働に近づくことができるような内容を目指した。今回も「オモシエナ」が進行役を務めた。

初めに、前回までの活動の振り返りと「行動人交流集会」での本事業についての発表の様子、今回の活動内容についての説明を行った。

次に、グループに分かれ、ワークショップを行った。高校生については、各校の所属（生徒会、JRC、部活動）ごとの5グループを編成した。今回はワールドカフェ方式で進め、一般参加者や主催・共催者は二人組になり時間を区切って5つのグループを回り、活動の具現化に向けて意見交換をした。

「宇宙イベント協議会とのコラボレーションでイベントを開く」「外国人訪問者のために地元の名所や名産を記した地図を作る」「地域のそば作りのプロと手を組んでイベントを開催する」など、前回より更に能代山本地域ならではの多様なアイディア、方策、協働したい大人の意見が出された。

参加者アンケートでは、「漠然とした目標ではなく、もっと具体的な意見を出すことが大切だと思った」「街を活性化するためには、まずは地域を知ることが大切だということが分かった」「大人は自分たちよりも（いろいろなことを）経験していると実感できた。立場が違っていても一緒になって考えることが大事だと思った」「一見すると達成するのが難しいと思えるようなことでも、小さなことからやっていけば近づくことができるのではないかと思った」「たくさんのヒントをいただいたので、これから活動に生かして実現していくようにしたい」「自分たちのやりたいことが実現できるという道筋が見えてワクワクしてきて面白かった」「そばの他にも何が商品化できるか話し合いたかった」などの意見があった。実際に市民活動を行っている一般参加者とより多くの意見交換することにより、提案実現に向けて更に視界が開け、意欲が高まった姿が伺えた。



アイスブレイク



一般参加者からのアドバイス

③活動の実践に向けて

「まちづくり高校生ワークショップ『マチコラボ』②」で参加者の提案はかなり練られたものになったが、実践までには更に検討を加えなければならないものが多かった。そこで、今後も「オモシエナ」と能代市民活動支援センターが窓口となり、高校生を中心とした若者

と市民活動団体をつないでいく役割を担うこと、両者が「ゆるく」話し合うことができる場を提供していくこと、当センターがそれをバックアップしていくことによって、できるだけ多くの提案が実現できるように支援していくことを確認した。

(4) 評価

①参加者アンケートより

「まちづくり高校生ワークショップ『マチコラボ』②」終了後、意見をもらった。

「これからもこのような学ぶ機会があればよいと思いますか」に対して「大いにそう思う」が82%、「どちらかというとそう思う」が18%であった。また、「周囲の人たちとまちづくりにかかわる意欲は増したと思いますか」に対しては、「大いにそう思う」が86%、「どちらかというとそう思う」が14%であった。本事業をとおして、まちづくりの学びと行動の啓発となり、参加者が活動の継続・発展を願っていることが分かった。

高校生からは「最初は何をやるか分からず緊張したが、とても話しやすい場となりアドバイスをもらうことができてよかったです」「視野が広がるから、これからもこういう活動があるといいと思った」「いろいろな使える友達に会うことができてよかったです。(使える友達を)使って出した意見が達成できるように頑張りたいと思う」「前回よりもいい意見が出て、実現に近づいてきたのでよかったです」「自分たちの活動を地域に発信していきたい」「3回参加してみて、自分の中の何かが変わった。自分がこれからどうしたいのかが固まってきた」「今度は自分が大人になる立場なので、こういう場に参加したい」「人とのつながりを大切にしたい」などの感想があり、一般参加者や他校生徒との交流や意見交換が有意義だったこと、実践したいことが実現に近づいていく喜びなどが伺えた。

一般参加者からは、「1回目のワークショップと比べて3回目は大きな進歩があった」「もっと大人側からぶつかっていく必要性を感じた」「今までこうした話合いの場がなかった。(高校生も)どんどん声を挙げてほしい」「(高校生の中にも)自分たちが思っている以上に地域を思う人が多いことが分かった。でも成し遂げるための方法が十分ではない。もっとお互いが向き合う時間があればと思った」などの感想があり、高校生の発想や成長への驚きや喜び、今後への期待などが感じられた。

②主催者・共催者の振り返る会より

- ・高校生の考え方の多様さを改めて知った。(意見を)整理するとより効果的である。
- ・地域とどう関わっていくかについて生徒はあまり知らないことが分かったので、そのきっかけをつかむ場を提供できたのはとても有意義である。
- ・もっと話し合いたかった。より時間をかけて和んでいくことが必要である。
- ・本事業が同様の活動につなげられればと思った。
- ・若者が活躍できるような交流、気軽に集まることができるような場が必要。
- ・これからも関わればと考えている。

などの感想があり、本実践をきっかけとした更なる交流や支援の継続を願う気持ちが伺えた。

(5) 成果と課題

本事業では「将来を担う高校生などの若者を中心に、講演会・ワークショップをとおして、

先進事例の学習や意見交換を行い、実践活動につなげることで地域活性化を図る」「プログラムで得たスキルや人材を生かして今後も地域で主体的に行動する人材を育成する」という二つのねらいがあった。

講演では、同世代の若者が気軽にまちおかしに参画している事例を知った。また、ワークショップでは、地域の専門機関との連携によるイベントづくり、地域の特産物の商品化、生徒会活動、部活動などの経験を基により豊かな活動にするための提案など、身近な課題に気付き、解決のための方策を探り、その中で大人との協働の大切さを学ぶことができた。その過程で高校生が

「自分たちもできるのではないか」という見通しや意欲をもつことができたのは、一つ目のねらいの成果である。

活動を重ねることにより一般参加者（市民活動団体など）が高校生の新鮮な発想に気付いたり、高校生が「身近な大人が自分たちの思いを受け止め的確なアドバイスをしてくれる頼りある存在である」ことを知ったりするなど、お互いのよさに気付くことができた。また、横のつながりをもって集まって相談し合うという機会のなかった一般参加者が一堂に会し交流を深め、スキルアップしながら「ゆるい」つながりを形成する有意義な場にもなった。さらに、今後もこのネットワークを生かしながら高校生の地域活性化へのアフターケアを継続していくことを確認している。特に、より地域のネットワークを強固なものにするために、「オモシェナ」や「能代市市民活動支援センター」は、本実践を契機に高校訪問を行い、さらに連携・交流を深めようとしている。これらは、二つ目のねらいの成果といえる。

一方、ボランティア経験やスキルが少ない高校生の参加者に対して、「ゆるい」話合いを大切にするあまり、内容が深まらなかつたり、モチベーションが上がらなかつたりする場面もあった。一般参加者や主催者のフォローのタイミング・内容については更に検討の必要性を感じた。

また、それぞれの提案を実践するためには、更に内容を吟味し、実現に向けての場や時間の保障をする必要がある。さらに、間に介在する学校などの関係機関と事前事後に十分説明を行うなど、連携に当たっては慎重に対応する必要がある。

今回の取組をきっかけに得た人とのつながり、スキルは大きな収穫であった。今後も地域活性化や人材育成に生かしていくことができるよう、当センターでもバックアップていきたい。



「ゆるい」つながり（一般参加者）

3 由利本荘市での実践開発

(1) 連携対象

市町村公民館等施設 … 由利本荘市西目公民館

西目地域では旧町時代から生涯学習活動が盛んで、合併した現在も生涯学習 23 団体と生涯スポーツ 27 団体が組織され、多くの住民が日々多様な生涯学習に取り組んでいる。一方、公民館では、住民のニーズに合った講座の開催や地域の課題に対応した事業の実施や利用者同士の横のつながり等について課題があると感じていた。

そこで、本事業においては、元々生涯学習活動が盛んであるという強みを生かして、地域や公民館の活性化につなげていく方策について、当センターと協働してその在り方を模索し具体的な取組を行うこととした。

(2) プログラムのねらい

公民館運営や地域の活性化に参画できるボランティアの養成とその活用を図り、住民との協働による公民館事業の活性化を推進する。

(3) 実践の概要

①プログラムの作成にあたって

西目公民館と当センターとの協議では、公民館事業を活性化させるためには、住民の視点を取り入れた新たな取組を展開する必要があることを確認した。

そこで、改めて公民館の運営を支援する人材を募集することにし、そのスキルアップを図るためボランティア養成講座を実施することとした。

具体的な取組として、傾聴のスキルを身に付けた人がいる傾聴サロンが地域の居場所として役に立っているという湯沢市の先進事例をヒントに「傾聴ボランティア養成講座」の開催と、また、生涯学習に取り組む団体や個人が集まって主体的に運営した三種町の「山本公民館まつり」の成功事例をヒントに、西目地区生涯学習交流展の自主運営を見据えた「生涯学習交流展ボランティア養成プログラム」を行うこととした。

②傾聴ボランティア養成講座（第1回から第4回まで）

○第1回

日 時	平成26年10月21日（火）
	午前9時30分から午前11時30分
会 場	由利本荘市西目公民館シーガル
参加者	由利本荘市民 8名
	由利本荘市教育委員会職員 2名
	県立仁賀保高等学校 Benkyo&Volunteer
	同好会生徒 13名
	中央教育事務所職員 1名
	県生涯学習センター職員 3名
テー マ	「傾聴の意味と意義」
講 師	秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻 准教授 佐々木 久長 氏



講師の佐々木久長氏

佐々木氏は、心理学を専門とし、地域のメンタルヘルスサポーター養成に携わりながら自殺予防に関する介入研究を行っている。また、生涯学習ボラ

ンティアグループ「ヤッホーの会」のメンバーとして当センターでも活動している。

内 容 講義・演習

「傾聴とは、積極的に相手の話を聞くことや相手を理解することが目的で、お互いに心が触れ合うことで元気になる」という趣旨の講話に始まり、演習では、高校生と大人がペアになり、傾聴を体験した。受講者は、改めて傾聴の難しさを感じながらも、その意味や意義を確かめた。大人も高校生と話すことで大いに刺激を受け、初めて会ったと思えないほど和やかな雰囲気で会が進んだ。

受講者からは、「日頃、高齢者施設でボランティア活動をしているが、その方々の良い話相手になれるか、自分の活動を振り返る機会となった」

「人の話を聞くことは、その人を理解し受け入れることであり、自分自身も相手に理解してもらっていることに気付いた」等、傾聴の目的をよく理解した感想が多くあった。



傾聴の練習

○第2回

日 時 平成26年10月28日（火）
午前10時から正午
会 場 由利本荘市西目公民館シーガル
参加者 由利本荘市民8名
由利本荘市教育委員会職員2名
県立仁賀保高等学校Benkyo&Volunteer
同好会生徒14名
県立西目高等学校教諭1名
生徒27名（ボランティア活動に関心のある生徒、福祉の授業選択者）

中央教育事務所職員1名
県生涯学習センター職員2名
テーマ 「傾聴を体験する」
講 師 秋田大学大学院医学系研究科
保健学専攻准教授 佐々木 久長 氏
内 容 講義・演習



講師と受講者のやりとり



傾聴の体験

前回の振り返りの後、傾聴をする前の心の準備や傾聴の技についての講義があった。受講者は、相づちを打つことで肯定的反応をすることや、相手が言った言葉を返すオウム返しによってどんな気持ちになるのか等、講義の内容を実感しながら隣同士で傾聴を体験した。

「私がいつも話を聴いている聞き方だと傾聴にならないことがわかった」「実際の場面ではうまくいかず不安がある。更に積み重ねが必要」等の感想があった。自身の振り返りと、更なる学習に向かう受講者の深化が伺えた。

○第3回

日 時 平成26年11月4日（火）午前10時から午前11時30分
会 場 由利本荘市西目公民館シーガル
参加者 由利本荘市民11名 由利本荘市教育委員会職員2名
県立仁賀保高等学校Benkyo&Volunteer同好会生徒14名
県立西目高等学校教諭1名 生徒22名（ボランティア活動に関心のある生徒、福祉の授業選択者）
中央教育事務所職員1名 県生涯学習センター職員2名
テーマ 「先進地の取組から学ぶ」
講 師 湯沢市傾聴ボランティア「つながる手の会」 代表 藤原 隆平 氏
藤原氏は、平成25年度に当センターが行動人として紹介している。湯沢市傾聴ボランティア「つながる手の会」は、市の傾聴ボランティア養成講座を修了し、傾聴ボランティアとして活動に協力する意向のある方によって結成された会である。会員は、「誰かの力になりたい」「気持ちに寄り添いたい」という思いで活動している。会の名称には、「みんなつながっているよ」という思いが込められている。

内 容 講義

講義では、湯沢市傾聴ボランティア「つながる手の会」の取組について紹介があり、「傾聴ボランティア養成講座の開始からスキルアップ等用意周到な準備のため、会の立ち上げまでに3年を要したことや、会発足後は想定したよりも来談者が少ないことを会員同士で話し合い、訪問しやすくする工夫などをした」等実践を積み上げた方ならではの深い内容だった。その中で、社会参加することによって社会貢献につながっていくこと、大切な人の悩みに気づく「ゲートキーパー」が地域にいることの大切さを力説した。

受講者の感想には、「深刻な顔をした来談者が、話し終わった後、笑顔で帰ったことで傾聴の大切さがよく理解できた」「湯沢市では、行政と市民の連携が良好であると思った」などがあり、「つながる手の会」の取組と地域に気軽に相談できる場所があることの大切さについて理解が進んだ。



講師の藤原隆平氏



受講者からの質問

○第4回

日 時 平成26年12月3日（水）午前10時から正午

会 場 仁賀保勤労青少年ホーム

参加者 由利本荘市民7名 由利本荘市教育委員会職員1名

県生涯学習センター職員2名

テー マ 「施設での実地研修」

内 容

にかほ市精神保健福祉ボランティア「ほたるの会」の協力を得て、実際の様子を見学して研修する機会をもった。

「ほたるの会」は、精神障がい者に対する偏見をなくし、ともに安心して暮らせる地域を目指し、精神障がいの方に寄り添いながら、側面から支える活動を平成14年から行っている。また、自殺予防のためコーヒーサロンを平成20年から実施し、どんなことでも話せる雰囲気を目指してボランティア活動を行っている。誰かに話を聴いてほしい時に、誰でも気軽に立ち寄り、お茶を飲みながら話をしたり、一息つける場所として提供している。

研修では、サロンを見学し、受講者も利用者の方々の輪の中に入り、歌を歌ったり語り合ったりして1時間程交流をした。サロンに集まる方が、満面の笑顔で楽しみながら活動し、毎月この会を楽しみにしている様子が伺えた。

この後、会の取組についての説明があった。「ボランティア活動は、今できることを無理をしないで、長く続けることが大切である」と強調していた。

受講者からは、「コーヒーサロンに集う人たちが、とても生き生きとして喜びに溢れている表情に驚いた」「傾聴ボランティアの別の一面を見ることができてよかったです」等の感想があった。今回の実地研修では、サロンの効用を実体験し、傾聴によって明るさや和やかな雰囲気を醸し出すという新たな一面を知ることができた。



コーヒーサロンに集う人々



ほたるの会の皆さんと

③生涯学習交流展ボランティア養成プログラム

研修会

日 時 平成26年10月30日（木）午後1時30分から午後3時

会 場 由利本荘市西目公民館シーガル

参加者 由利本荘市民5名 由利本荘市教育委員会職員2名

中央教育事務所職員1名 県生涯学習センター職員2名

テー マ 「三種町での実践を通じて」

講 師 三種町教育委員会生涯学習課 課長 田村 征孝 氏

田村氏は、三種町教育委員会生涯学習課の課長として、長く途切れていた「山本公民館まつり」を住民と協働で復活させた。現在も住民主体の公民館運営に取り組んでいる。

内 容 講義

「山本公民館まつり」に当たっては、「かつての賑わいを再現したい」「公民館利用者の横のつながりを広めたい」等の住民と公民館の強い思いが結び付いて復活した。「誰でも気軽に手伝いをする雰囲気を作ること」や「展示する作品の設置もボランティアが行ったこと」等、住民の意欲に支えられて運営されていることをユーモアを交えて紹介した。

実践例の紹介の後、参加者から様々な質問が出された。「真冬に祭りを実施して、町民の反応はどうだったのか」、「実行委員会での役割分担はどうしたのか」等、自分たちが実際に運営することをイメージした質問であった。また、「西目公民館で実施できそうな事例を紹介してもらった」「地域の方々の意欲的な姿勢に感動した。西目地域でも公民館活動を通じて、次世代の人たちとの交流につなげる行動を起こすべきだ」「大変有意義な内容であった。もっと多くの方に聴いてもらいたかった」等の感想が出され、自分たちもやれるのではないかという意欲が大いに喚起された。



講師の田村征孝氏



研修会の様子

生涯学習交流展実行委員会

日 時 平成26年11月5日（水）午前9時30分から午前10時40分

会 場 由利本荘市西目公民館シーガル

参加者 公民館運営ボランティア6名 由利本荘市教育委員会職員2名

県生涯学習センター職員2名

内 容 生涯学習交流展についての協議

前回の研修内容が生かされ、協議では、生涯学習交流展に向けて主体的に自分たちで作り上げていこうという雰囲気になった。参加者からは、活発な意見やアイディアが次々と提案された。協議の結果、会場設営、作品募集、新たな試みとして無料体験会（囲碁、機織り、クリスマス小物づくり）の参加者への声かけ等を行うこととした。また、交流展までに、機織りの研修会を実施することとした。

生涯学習交流展当日までには、数回に渡る打合せや体験会に向けた講習、展示の準備など様々な事前の取組が行われた。

生涯学習交流展

日 時 平成26年12月4日（木）～12月7日（日）午前9時から午後5時

会 場 由利本荘市西目公民館シーガル

参 加 者 延べ約800名

内 容 ・生涯学習作品展 ・体験会 ・ステージ発表 ・バザー等

公民館運営ボランティアの方々が、随所に携わる内容となった。前日からの会場設営や作品展示、終了後の作品の撤去は公民館の職員と協力して行った。無料体験会では、機織りの講師として活躍し、チャリティーバザーでは、来場者への案内や声かけ、ステージ発表では、これまで積み重ねてきた自分の技を披露する方もおり、発表が終了した後には各団体との連絡調整も担当した。

公民館館長は、「公民館運営ボランティアの方々が、積極的に運営に取り組んでくれたおかげで交流展は大成功に終わった」と話し、来場者からも「例年以上に盛り上がりとても良かった」という声が上がった。



生涯学習交流展



公民館運営ボランティアによる機織り

（4）評価

傾聴ボランティア養成講座では、受講者のアンケートからも今回学習したことをボランティア活動に生かしたいとの声が多くかった。講座が始まった当初は「自分のスキルアップのために参加した」という動機多かったが、第4回目の講座が終了した後のアンケートでは、「自分の為に学習したことが、いつか人の為になるように役立てたい」という変容が見られた。

受講者と行った振り返りの会では、参加した受講者全員から「傾聴についてとても勉強になった」「このような講座があったらまた受講したい」「この講座で学んだことを今後に生かして、お手伝いできることがあったら積極的に携わっていきたい」等の前向きな感

想が出された。

また、「高校生と話をして大いに刺激を受けた。ボランティア活動に携わっている高校生の意識の高さに驚いた」等の感想が聞かれた。地域の高校生が多く受講したことにより、高校側のニーズも掘り起こし、高校と公民館が連携するきっかけを作ることができた。

生涯学習交流展については、研修会での田村氏の講義が受講者の動機付けとなり意欲にあふれる交流展の成功につながった。研修会後の生涯学習交流展実行委員会でも、活発な意見が出され、自分たちでとにかくできることから始めてみようという主体的な姿勢が生まれた。事前の研修や入念な準備活動により、来館者からも好評を博して、運営に携わった全ての人たちの間に、ボランティアとして参加したことによって自分たち自身で会を作り上げたのだという達成感が広がった。

西目公民館では、今回参加した公民館運営ボランティアが、今後も各講座に参加しながら、運営スタッフとして生涯学習交流展等に関わっていくことを確認している。

(5) 成果と課題

生涯学習交流展ボランティア養成プログラムでは、研修会の「学び」がその後の具体的な活動に大きく影響した。山本公民館での住民と公民館の熱意と工夫、協働による活性化等の事例を学び、公民館職員も含め受講者の意識と意欲は大きく喚起された。その後の実行委員会や事前の準備では、受講者がもっている知識やノウハウ、人的ネットワークなどを出し合い、積極的に運営に参加することにつながり、そのことが住民の関心を高め、生涯学習交流展に多くの来館者を呼ぶことにもつながり公民館の活性化にも大きく寄与することとなった。

このように本プログラムでは、「公民館運営や地域の活性化に参画できるボランティアの養成と活用、住民との協働による公民館事業の活性化」という当初のねらいの達成を確認するとともに、公民館運営の住民参画モデルの一つとして提示できるものとなった。公民館公民館運営ボランティアは、次年度以降も継続し、人員と活用事業の拡充を図っていく。

一方の傾聴ボランティア養成講座では、受講者が講座の回数を重ねる度に「自分も人の役に立ちたい」という思いになり、その思いが、ボランティア活動を深化させる要因にもなった。受講者の中には、既に地域で高齢者の食事の世話や施設でボランティアに従事するなど行動に移している方もいる。

ただし、傾聴ボランティアは、数回講座を受講したからといって、すぐに活動できるわけではない。湯沢市傾聴ボランティア「つながる手の会」は、傾聴ボランティア養成講座を受けてから用意周到な準備を経て3年後に立ち上がっている。今後も継続的な研修が必要である。西目公民館でも、次年度以降の傾聴ボランティア養成講座の実施に当たり、福祉行政との連携を図ってこの講座を継続しようとしている。今回の事業の推進に当たり教育委員会、公民館という枠にこだわらない連携を考える契機となったが、今後はその連携を一層推進することが必要といえる。

今回の事業で講師を依頼した湯沢市傾聴ボランティア「つながる手の会」の藤原隆平氏は、行動人として平成25年度に紹介した方である。他市町村で活動している行動人を事業の中で活用したことも、行動人のネットワーク化を図る上で一つの成果といえる。このことによって受講者が、学びと行動が結び付いた新たな行動人として活動することになれば、まさにビジョンが目指している「知と行動の循環」が進んだことになろう。

4 羽後町での実践開発

(1) 連携の対象

行動人 堀回コミュニティ推進委員会
市町村公民館等施設 元西公民館

堀回コミュニティ推進委員会は、県のコミュニティモデル地区として昭和49年に結成された組織である。以来40年間に渡り「住みよい地域づくり」を目指して、自主・自立を基本に多種多様で活発な取組が続けられてきた。

活動の拠点は元西公民館である。元西公民館は嘱託職員が常駐しており、その内の一人はコミュニティ推進委員会の事務局員である。また、町の正職員は他の公民館と兼務で複数の公民館を担当している。

当センターでは、昨年度より「住民主導による地域コミュニティの再生・活性化モデル」として当委員会と協働して事業を進めてきた。今年度も昨年度に得られた成果や課題を踏まえ、堀回コミュニティ推進委員会、元西公民館、県生涯学習センターの三者で協働し、地域の活性化に向けた事業を推進していくこととした。

(2) プログラムのねらい

コミュニティの先に立って活動する行動人と連携して事業を行うことによって、事業主体者のスキルアップを図り、住民がふるさとの良さを再発見するよう促す。また、この協働事業をとおして「学びを行動に結び付ける」行動人の輪が地域に広がり、住民が主体となった地域コミュニティが活性化することを目指す。

(3) 実践の概要

昨年度は、「伝統や文化の継承」をキーワードに、古くから伝わる行事や郷土芸能に視点を当てて、地元高校の郷土芸能部や地域の伝統芸能保存会とともにふるさと再生を考える研修会を実施した。その後、子どもからお年寄りまで地域の各種団体や住民等が集い交流する行事（雪中綱引き大会）を行った。

2年目となる今年度は、西馬音内城跡の散策路を整備したこともあり、地域の歴史にスポットを当てふるさとの良さを見つめ直すことをテーマに行事や勉強会を開催した。

①元西地域ふるさとを考える会パートⅡ「企画研修会議」

期日 平成26年8月21日（金）

会場 元西公民館

参加者 堀回コミュニティ推進委員会・羽後町教育委員会・県生涯学習センター 計18名

堀回コミュニティ推進委員会は、地域の12集落と26団体からなる。その代表者が集まり、今地域に何が必要かを協議した。協議の中では、「高齢者への支援」「世代間交流」「子どもたちへふるさとの良さや歴史の伝承」「西馬音内城跡の整備に伴う歴史の掘り起こし」等様々な話題が上った。

また、堀回コミュニティの念願だった西馬音内城跡の散策路整備が、本事業とは別に施行されたこともあり、この散策路を活用した行事を開催したいという希望が出された。このときの協議や後日の打合せ等を経て、以下の行事を実施することになった。



企画研修会議

②ふるさとの歴史を学ぶ勉強会 第1回

「西馬音内城跡探検隊

(にしもないしろあとたんけんたい)

日 時 平成26年10月26日(日)

9:00~13:30

コース 西藏寺→城跡散策路→元西公民館

講 師 元秋田考古学協会会長 鈴木俊男氏

西藏寺住職 柿崎隆豊氏

内 容

- ・はじめの会(西藏寺住職さんのお話)
- ・城跡巡り(講師の説明・クイズラリー)
- ・昼食会(おにぎりと芋の子汁で会食)
- ・おわりの会(クイズ結果発表ほか)

参加者

- | | |
|-------------------------|-----|
| ・西馬音内小学校児童 | 8名 |
| ・元西小学校児童 | 7名 |
| ・羽後高校ボランティア部生徒 | 7名 |
| ・小学生保護者 | 7名 |
| ・学校関係者 | 4名 |
| ・一般参加(コミュニティ推進委員・婦人会含む) | 41名 |
| ・羽後町職員(教育長・公民館・広報課) | 3名 |
| ・県生涯学習センター職員2名 | 1名 |

西馬音内城は小野寺氏の居城であり、元西小学校の裏手の山に城跡が残っている。また、近くにはその菩提寺である西藏寺が建ち、小野寺家の興亡や近隣地域の歴史が伝えられている。この城跡散策路の整備をきっかけに、勉強会の第1回として「西馬音内城跡探検隊」を企画した。会の開催に当たり留意した点やその成果は以下のとおりである。

○小学校児童への参加要請

西馬音内城跡のある元西小学校だけでなく平成28年度に同校と統合する事が決まっている西馬音内小学校にも参加を呼びかけた。学校では、両校の児童の交流が図られることを歓迎し、その呼びかけにも応じて多くの児童が参加した。

○高校生ボランティアへの参加要請

昨年度も行事開催の際に参加してもらった羽後高校ボランティア部の生徒が今回も参加し、散策グループのリーダーを務めた。道中に掲示されたクイズを児童らと一緒に考え、集合時・休憩時等の整列や交流の際には、年の近い身近なお兄さんお姉さんとして楽しく交流した。また、一般の参加者からも「若い人たちと一緒に歩くことができて楽しかった」という声が聞かれた。

ふるさとの歴史を学ぶ勉強会 第1回 《小学校児童・保護者用チラシ》

にしもないしろあとたんけんたい

西馬音内城跡探検隊

参加者募集!

時代は、武士の世の中。

ここ、西馬音内城跡は、小野寺氏という殿さまが土地を治め、町はたいへん栄えていました。私たちふるさとの西馬音内の城跡には、どんな秘密があるのでしょうか。当時の歴史を思い起こしながら、友だちや地域の人といっしょに歩きましょう。

【期 日】 平成26年10月26日(日)

(午前) 小学生、高学年、保護者の方

西馬音内城の歴史に興味がある方

【コース】 西藏寺→西馬音内城跡散策路→大手門会館

【内容・日程】

○受付(西藏寺) 8:30~9:00

○はじめの会 9:00~9:30

○散策 9:30~11:30

○西馬音内城跡のお話 11:30~12:00

・スライドとお話

○昼食会(大手門会館) 12:00~13:10

・おにぎりと芋の子汁で会食

○おわりの会 13:00~13:30

・クイズ結果発表・あいさつほか

(午後) 元秋田考古学協会会長 鈴木俊男氏、西馬音内城跡探検隊大手門会館

【参加料】 無料 昼食会も無料です!

(持ち物) 服装等 歩きやすい靴・服装・水筒等。その他必要に応じて防寒・防雨対策をお願いします。

(雨天の場合) 小雨前行・悪天の場合は室内で西馬音内城のお話、

・バス・昼食会等を行います)

【参加申込み】 下の申込み欄に記入して担任の先生に届けてください。

※西馬音内城の小学校児童は公民館バスを運行します。

乗車を希望する児童は、申込用紙の欄に〇印を記入して下さい。当日は、朝8時30分まで羽後町

コミュニティセンター前にお集めください。

主催 秋田県教育委員会

共催 羽後町教育委員会

協同コミュニティ推進委員会

主管 元秋田考古学協会会長

協同コミュニティ推進委員会

キトリ

西馬音内城跡探検隊参加申込書

学校名／学年 小学校 年 参加者氏名

保護者氏名 保護者も参加する場合は○

電話番号

探検隊チラシ

西馬音内城跡探検隊希望する方は○

公民館バス乗車



御住職の話に聞き入る参加者(はじめの会)

○ふるさとを学ぶ場面の設定

地元の研究者と西蔵寺の住職を講師に迎え、はじめの会や実際の散策の際に講話をいただいたり、歩きながら説明を受けたりして城の歴史や言い伝えなどを学んだ。大人も子どももそれぞれのレベルで新しい気付きや発見があったようである。



○交流のための場面設定

はじめの会では、今日の目標を「ふるさとの良さを知ること」と「たくさんの人と知り合いになって仲良くなること」と告げ、参加者同士の交流を目的としていることを意識してもらった。以下の点を工夫した。

- ・全員に名札(シール)を付けてもらった。大人の参加者から、「〇〇の家の子か!」といった親しみの声が聞こえた。
- ・小学生と高校生を、学校・学年・男女のバランスを考慮してグルーピングし、一日一緒に活動するよう促した。大人の参加者にはできるだけ子どもたちと一緒に歩いてもらうよう呼びかけた。アンケートには「新しい友達ができた」とか「子どもたちと触れ合える機会をもらえた」などの感想が見られた。
- ・クイズラリーと称し、散策路の途中に城にまつわる歴史クイズを掲示した。小学生にとって少し難しいくらいの問題を作成したので、グループリーダーの高校生と相談したり周りの大人に聞いたりして参加者の交流に一役買うことができた。
- ・婦人会の方々の協力で、芋の子汁とおにぎりを作っていただき、参加者全員で会食を楽しんだ。おいしい昼食をほおばり、あちらこちらで笑顔や楽しそうな笑い声があふれた。

講師の説明を聴く参加者たち(城跡巡り)



問題を見つめる参加者たち(クイズラリー)



参加者全員で楽しく会食(昼食会)

③ふるさとの歴史を学ぶ勉強会 第2回「歴史講演会『西馬音内と由利』」

日 時 平成26年11月15日(土) 13:30~15:00

会 場 元西公民館(元西総合センター)

講 師 由利本荘市文化財保護審議会会長

鈴木 登氏

参加者 羽後町内参加者45名

羽後町外参加者20名

センター職員 3名

計68名

今年度のテーマを「ふるさとの歴史を学ぶ」と設定し、特に西馬音内城が由利本荘市矢島と縁の深い歴史をもつことから、県内の中世史研究の第一人者である由利本荘市文化財保護審議会の会長に講演を依頼した。

当初は学びを行動につなげることを意識して、歴史講演会を城跡探検隊の先に行う計画を立てたが、講師の都合もあって、探検隊の3週間後に講演会を開催した。

当初の思惑とは違ったが、探検隊への参加をきっかけに「地元の歴史に興味をもつたので参加した」という方もいた。これも「探検隊」という学びから関心が高まり、更に学ぼうという行動に結び付いた好例といえよう。

ふるさとの歴史を学ぶ勉強会 第2回

【歴史講演会】

『西馬音内と由利』

このたび、西馬音内城跡の散策路を整備しました。

そこで、ふるさとの歴史を振り返る機会として歴史講演会を開催します。

隣に位置する由利地方との関わりを通して私たちのふるさと西馬音内の歴史を学びましょう。

【期 日】 平成26年11月15日(土)

【時 間】

午後1時30分から

午後3時まで

【会 場】 羽後町元西総合センター

(元西公民館)

【対 象】 ふるさとの歴史に関心のある一般の方、学生、生徒等

【受講料】 無料

【講 師】

由利本荘市文化財保護審議会会長 鈴木 登氏

【申込み】 お申込みは不要です。当日会場にお越しください。



(西馬音内城古絵図：土田健氏所有)

主催 秋田県教育委員会

共催 羽後町教育委員会

堀回コミュニティ推進委員会

主管 秋田県生涯学習センター

堀回コミュニティ推進委員会

【お問い合わせ先】

元西公民館

【電 話】 0183-62-2296

または生涯学習センター（学習情報班）

【電 話】 018-865-1171

【E-mail】 sogen002@mail2.pref.akita.jp

歴史講演会チラシ



歴史講演会(講師 鈴木登氏)



会場いっぱいに集まった聴講者

④冬空に大輪の花を咲かせよう「元城(もとき)雪まつり」

期 日 平成27年2月8日（日）午後1時～7時

会 場 元西公民館

内 容 ・雪中綱引き合戦 ・吹雪どり餅交流会 ・雪中田植え/神事どんど焼き
・用心巡り ・冬花火大会 ・家内安全福引き/ミカンまき

堀回地域では、地域の人々の交流や元気の創出を目的に、平成24年度（25年1月）に雪中綱引き合戦を開催した。また、昨年度はこの行事を本事業との共催の形で行い、「地域の伝統を継承する」という研修会での学びに意味をもたせ、高校生による神楽の舞や地元の保存会による獅子舞の演舞披露を加えて盛り上がりを見せた。

今年度は「元城雪まつり」に名前を変え、雪中綱引きの他、雪中田植えやどんど焼きの神事等を行い、より地域の伝統を継承していく行事に色合いを移して行われた。これには、途絶えかけた地域の伝統行事を保存会に代わって地域ぐるみで継承していくというねらいもある。地域の保育園児からお年寄りまで、200人を超える人々が集まり、盛りだくさんの行事を行って交流を深めた。



雪中綱引き



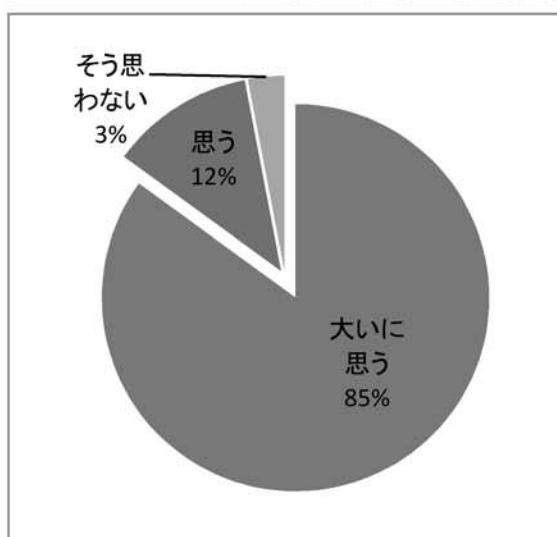
門松かまくら



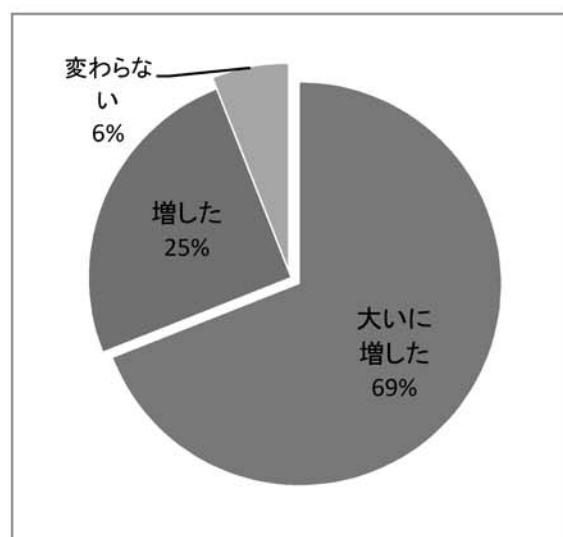
用心めぐり

(4) 評価

①「ふるさとの歴史を学ぶ勉強会」を開催したことについて



これからもこのような学ぶ機会があればよいと思いますか



「ふるさとについて学ぶ」意欲は増したと思いますか

「これからも学ぶ機会があればよい」との回答が97%、「学ぶ意欲が増した」との回答が94%と、回答者のほとんどが今回の行事を前向きに捉えていた。

②参加者の声（アンケートから）

○第1回勉強会「西馬音内城跡探検隊」〔満足度評価(5段階平均)4.70〕

〈小学生参加者〉〔満足度評価(5段階平均)4.71〕

- ・今日は小野寺様の歴史や十三森のことがよく分かりました。羽後町にも戦いの神様がいたなんて初めて知りました。

- ・高校生の言うことをよく聞いて行動できたのでよかったです。

- ・元西小のみんなは山道をすいすい歩いてすごかったです。○○さんと友達になりました。

- ・みんなといっしょに探検をしたりおにぎりや芋の子汁を食べたのが楽しかったです。

〈一般参加者〉〔満足度評価(5段階平均)4.69〕

- ・なかなか行く機会が無かったのすごく楽しみにしていました。「選択の違いで歴史が変わっていたかもしれない」等と考えながら歩きました。

- ・歴史をあらためて学ぶのも楽しいことだと気付きました。

- ・県と役場と地域の人たちとの一体感が見えてうれしかった。

- ・元西に住んで13年になりますが城のことを何も知りませんでした。今度実家の母が来たら案内したいと思いました。

- ・子供も大人も、ボランティアやお年寄りも、たくさんの人とゆっくり自然を歩き回り交流を深めそれだけで楽しかった。とてもよい気持ちになりました。

- ・歴史のある城跡がこれからもずっと語り継がれて保存されることを願う。

- ・これを機会に次の講演会にも参加させていただきたい。

- ・特に子どもたちにはもっともっと地元の歴史に触れて欲しいと思いました。

○第2回勉強会「歴史講演会」〔満足度評価(5段階平均)4.34〕

- ・これを機会に資料館に行って調べてみたいと思う。西馬音内盆踊りとの関係も調べてみたい。

- ・日本史の講義に首を突っ込んだ気分でとても楽しかったです。仲良し会で話せることにワクワクしています。

- ・元城獅子舞の郷土芸能保存会に入っているので、もっと小野寺の足跡をたどってみたい。

- ・このような歴史講演会を今後も続けて欲しい。

<p>ふるさとの歴史を学ぶ勉強会 第1回 西馬音内城跡探検隊！ 元西 小学生</p> <p>今日はお前してくださってありがとうございます。 これからお話をしますので、今日は筆を書いてください。</p> <p>今日の探検隊は</p> <p>() とても楽しかった () 驚かなかった () どちらとも言えない () 少しでも楽しかった () とてもつまらなかった () どれかに○をつけてください</p> <p>今日の活動は</p> <p>() 十分満足 () おおむね満足 () どちらとも言えない () やや不満 () 大いに不満 () どれかに○をつけてください</p> <p>今日の活動で思ったことや感じたことを自由に書いてください。</p> <p>今日はおかげで一番楽しかったことは、おじろのことをやめたりとちょっとクイズにこたえたことです。それと学校でいたんけんしたときは、とにかくいかなかつたのでとてもよもよかっていました。</p>	<p>ふるさとの歴史を学ぶ勉強会 第1回 西馬音内城跡探検隊！ アンケート</p> <p>今日はお前してくださってありがとうございます。 これからお話をしますので、今日の筆を書いてください。</p> <p>参加形態 () 一般参加 () 高校生ボランティア () スタッフとして ()</p> <p>今日の探検隊の活動は</p> <p>() 十分満足 () おおむね満足 () どちらとも言えない () やや不満 () 大いに不満 () どれかに○をつけてください</p> <p>今日の活動で思ったことや感じたことを自由に書いてください。</p> <p>今日はなぜか聞こえのできないお話を聞けたり、探検活動をしたり、とてもいい時間を過ごすことができました。自分をかんぱりしてもらったり、それがとても喜んであります。ときには、宝探しの冒険をしてます。本当に探検をしてきたくなりました。今日はありがとうございました。</p> <p>今回初めて西馬音内城跡へ行きました。見どころの場所など詳しい説明をしていただき、當時の情景を想像することができました。ありがとうございました。</p>
---	--

アンケート①(城跡探検隊)

<p>ふるさとの歴史を学ぶ勉強会 第2回 西馬音内と由利 アンケート</p> <p>今日はお前してくださってありがとうございます。 どちらとも言えない</p> <p>1. ふるさとの歴史を学ぶ勉強会 第1回は、1月25日(日)に「西馬音内城跡探検隊」と称して西馬音内城跡を観察しましたか。() 参加しなかった () 参加しました</p> <p>2. 今日の講演会に参加してさりとけや理由はどんなことですか。(複数回答可) () 誰かがおもしろい話をしていた () おもしろいお話を聞いていた () おもしろいお題に興味があった () 人に会った () おもしろいお話を聞いた () おもしろいお話を読んだ () 何年かの昔 () その他の ()</p> <p>3. 今日の講演会の内容は () 十分満足 () おおむね満足 () どちらとも言えない () やや不満 () 大いに不満</p> <p>4. 今日は講演会または第1回探検隊に参加してみて、これからもこのような学ぶ機会があればよいと思いますか。(複数回答可) () とても思う () おおむね思う () どちらとも思わない () どちらとも思えない () あまり思わない () まったく思わない</p> <p>5. あなたは、今日は講演会、または第1回探検隊に参加してみて、「ふるさとについて学ぶ」意味は感じましたか。(複数回答可) () とても思いました () おおむね思いました () どちらとも思いました () どちらとも思いません () あまり思いません () 全く思いません</p> <p>6. 今日の講演会や、これまでのふるさとについて学ぶ会に参加して感じたことや考えたことを自由に書いてください。</p> <p>資料を整えたり準備に忙しかったと感じました。 ありがとうございました。 印象的で面白く、頭もフル回転した部分などありました。 がじった事に感動しました。 素晴らしい企画だと思います。有難うございました。 ありがとうございました。</p>
--

アンケート②(歴史講演会)

以上のように「学びを行動につなげること」「様々な人と交流したこと」「歴史や自然に触れたこと」「地域への愛着が増したこと」等について前向きな感想が数多く出された。

③振り返る会の開催

今年度生涯学習センターと堀回コミュニティ推進委員会、羽後町教育委員会と共同して開催してきた一連の行事も終わり、事業を総括する意味で振り返りの会を実施した。協議の中では次のような感想や意見・今後の見通しなどを話し合った。

- ・長い間、西馬音内城跡を地域の財産として活用できないものかと考えてきた念願が叶った。
- ・地域課題の解決に向けた取組を様々行ってきたが、学びがあってこそ、その成功に結び付くことをあらためて実感した。
- ・一連の取組の甲斐もあって、推進委員会の取組に参画してくれる人も増えてきた。
- ・今後は、高齢者や一人暮らし世帯への支援、少子化対策等地域の切実な課題に向けてまたがんばっていきたい。

(5) 成果と課題

本事業では、企画研修会議等において、地域の様々な課題を掘り起こしたりその解決に向けた方策を話し合ったりすることができた。そして、そのための行事として住民を対象に「城跡探検隊」や「歴史講演会」を行ったことで、地域に住む人たちがふるさとの自然や歴史に関心をもち、更なる学びと行動につながるきっかけを作れたことは本事業の大きな成果であるといえる。

また、研修会議の場で課題として挙げられた「世代間交流」「子どもたちへのふるさとの良さや歴史の継承」「西馬音内城跡の整備に伴う歴史の掘り起こし」などにも貢献することができたと考える。

他にも、県機関である当センターが仲立ちをすることで県立高校と地域が連携しやすい関係を築けたことや、統合を前にした他の小学校児童との交流のきっかけを作れたことなども成果の一つといえる。高校側からも「生徒たちが地域に出て行くことが貴重な体験となり、キャリア&スキルアップにつながっている」という評価を得た。

このように、堀回地域では、これまで活発に活動してきたコミュニティ推進委員会に対して、より成熟するためのスキルアップや、住民が「学びから行動へ」向かう流れが地域全体に広がるモデルを構築するという意味で一つの形を提示できたのではないかと考えている。

しかし、その一方で、当地域は少子高齢化率が高く、晩婚化や高齢者の健康、一人暮らし世帯に対する支援等が大きな課題となっている。

振り返る会でも話し合われたように、こうした課題に向き合いその解決に向けた今後の取組においては、学ぶことによって取組の質を向上させたり、そのことが新たな学びを生んで知と行動の循環が進むという流れが更に生かされることを期待したい。

地域での暮らしを豊かで幸せなものにするためには、地域社会全体で支え合う仕組を作らなければならない。こうした意味からも、地域に住む人たちが、自分たちの地域により関心をもつきっかけを作る本事業の取組を含めた堀回コミュニティの活動は意義深いといえる。

当センターでも、連携事業という形では終了するが、今後も関わりをもち続けながら地域の生涯学習を支援する当センターの本来の役割を一層果たしていきたい。

5 行動人交流集会（秋田県生涯学習・社会教育研究大会と同時開催）

(1) 趣旨

市町村や県の生涯学習・社会教育関係職員と行動人が一堂に会し、学びと行動の成果を地域や社会の発展につなげる方策を探り、協働の仕組づくりのための効果的なネットワークの形成を促進する。

(2) 内容

①基調講演

講師に岩手大学教育学部学部長新妻二男氏を迎えて、「今、生涯学習・社会教育に期待されるもの～地域に根ざす生涯学習・社会教育とは～」と題した基調講演を行った。教育基本法や社会教育法の改正の趣旨を踏まえ、社会教育の学校教育や家庭教育との連携や支援に果たす役割、その仕組づくりなどについて触れ、特に、地域で進める社会教育やその仕組では、多様な人格やその取組を肯定することにより、関わる人々が共感できる関係の構築と拡充が不可欠であることを強調された。



新妻氏による基調講演

②行動人実践パネル展示・情報交換

行動人として紹介した約300の団体及び個人に本交流集会の案内をしたところ、約60人の参加申込があった。そのうち活動紹介を希望する団体が以下のパネル展示を行った。

- ・鹿角紫根染・茜染研究会
- ・おさるべ元気クラブ（地域づくり）
- ・日本笑い学会秋田県人会
- ・秋田長生大学（自主学習グループ）
- ・おんぷの会（音楽普及活動）
- ・県立博物館ボランティアの会
- ・生涯学習ボランティアヤッホーの会
- ・長沢薰（書家）
- ・川柳銀の笛吟社
- ・手しごと和紙 わ遊（十文字和紙）
- ・松山町内にホタルを復活させる会
- ・O t o を楽しむ会（ピアノ外装樺細工加工）
- ・ちっちやいもの倶楽部（動物とのふれあい）
- ・手作り工房「心紬」（着物再生）
- ・夢灯りプロジェクト（牛乳パック灯籠）
- ・まちなかにぎわい委員会湯沢まちゼミ実行委員会



パネル展示による活動紹介



実物も展示

参加者及び出展者に自由に閲覧してもらったところ、大変意欲的に展示ブースを回り情報交換や交流を深めていた。「うちも出せばよかった」「こういう機会は初めてだ」というような感想があり、行動人として活動されている方々は、活動の広がりや交流の場を求めていることを強く実感した。市町村職員からは、公民館講座や主催事業に取り入れられそうな事例があったという感想も多く寄せられた。



活発な情報交換

③事例研究会

行動人連携学習プログラムの事例発表と行動人活動紹介等を題材にして、交流集会のテーマが目指す「学びと行動の成果を協働に結び付け、地域や社会の発展につなげる方策」について協議を行った。200名を超える参加者があり、活発な意見交換が行われた。



会場一杯の参加者

<羽後町堀回コミュニティ>

「現実から学び合い、地域の活力を育てる～みんなが主役のコミュニティづくり～」と題してコミュニティの歩みと主な取組、地域づくりにかける思いや願いについて語った。継続の重みや話合いによる合意形成、人材育成と文化の継承の取組などコミュニティの運営について参加者の共感を得た。活動の拠点としての公民館の役割や町の支援についても参考になる発表となった。



堀回コミュニティ金氏の発表

<西目公民館>

「地域の公民館を地域住民が盛り上げる～公民館ボランティア養成の取組～」と題して、行動人連携学習プログラム（傾聴及び公民館運営ボランティア養成講座）の実践について発表した。職員数の減少、講座参加者の減少、事業参加者の高齢化等の課題や、その解決の一助として本事業を活用し、次年度以降の講座や活動につながる成果が得られたことについて触れた。地域人材の発掘、育成、活用等公民館に求められる役割について再考する提案となった。



西目公民館斎藤館長の発表

<まちおこしNPOオモシエナ>

「『ゆるい市民』からの変革 わたしが考えるマチのこれから」と題して、グループの活動と行動人連携学習プログラム（マチコラボ）について発表した。地域活性化や町おこしに若者をどう巻き込んでいくか、若者が町に愛着をもてる仕掛けをどう仕組んでいくかについて提案した。特に本事業の実践から、高校生を主体とした若者の発想と実動できる地域の大との協働が一つのヒントになることを述べた。



オモシエナ代表板谷氏の発表

<協議>

講師がコーディネーターとなり、事例に対する意見、各団体の活動の状況等についての発言を求めた。参加した行動人からは、自分の活動における課題や困難点などが活発に出された。後継者の育成、会や活動の継続、運営費の獲得等が共通する話題となつた。発表者もそれぞれの立場と経験から意見を述べた。感想では、参加者の多くが、活動する者の「熱意」と「人づくり」の大切さを実感したという旨の記述が多く見られた。



パネル展示発表者からの発言

(3) 成果と課題

①成果

- ・行動人に参加してもらうことで、テーマである「学び・行動・協働」の必要性やその在り方について考える機会を提供できた。アンケートでは回答者の9割が今回の開催形式を肯定していた。
- ・行政職員に実際に活動する人々の声が届き、今後さらに、生涯学習や社会教育の分野でも地域活性化や人材育成を意図した取組が要請されることの認識を高められた。



フロアからの発言

②課題

- ・交流集会の充実のためには、行動人への周知の仕方、会場の確保、他の機関との連携等の工夫が必要である。
- ・「交流」という点では、関わる場面がまだ薄かつた。地域開催や研修事業に組み込むなど、年間の事業の見直しを含めて関係者の交流やネットワークを意識した事業の在り方を考えたい。



発表者からの意見

6 行動人の情報収集・発信から人材活用へ

(1) 広報の状況

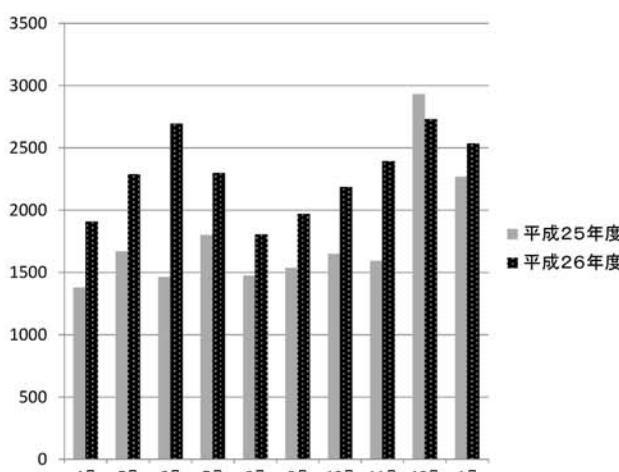
- ①リーフレットの作成
- ②市町村への訪問及び広報
 - 県内 25 市町村教育委員会、各公民館、
県内市民活動支援センター等へ配付
- ③広報紙による事業や活動の紹介

(2) 行動人の取材、Web サイトによる紹介

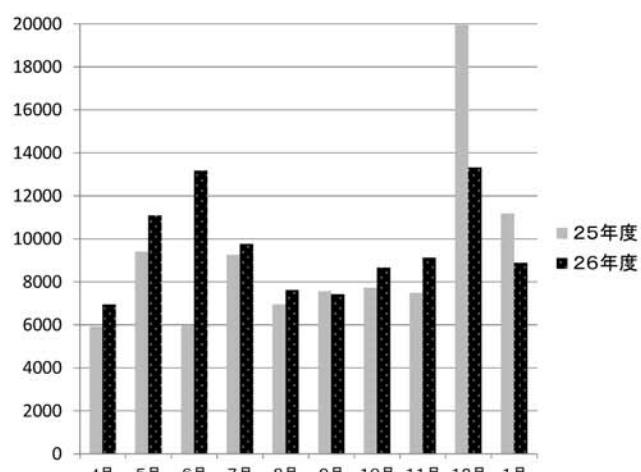
- ①行動人紹介累計 40,584 人 (1/31現在)
- ②取材記事 153 件 (1/31現在)
- ③閲覧者数の比較



広報用リーフレット



Web サイトアクセス数前年比較



ページビュー前年比較

アクセス数は、12月を除き前年度を上回っており、毎月2千件前後で推移している。ページビュー数もほぼ昨年を上回っている。昨年12月は、広報の開始時期と紹介累計3万人の達成が重なった時期で、アクセス数、ページビュー数とともに急激な伸びが見られた。26年度の6月、12月に閲覧数が多いのは、行動人の紹介累計が6月には3万5千人、12月に4万人を達成し、県のWebサイト上で広く広報をした時期と重なったためと考えられる。

④行動人情報提供数の増加

市町村からの行動人紹介事例や、行動人からの紹介事例が昨年以上に寄せられるようになった。市町村からの紹介が増えた要因は、教育事務所による市町村への働きかけや、生涯学習奨励員からの情報提供があったことが挙げられる。次年度以降も、他の機関や関係者と連携を取りながら組織的に情報収集を行いたい。

- ・市町村や行動人からの紹介事例 53 件 (昨年度 22 件)

(3) 行動人情報の活用

行動人Webサイトを閲覧して公民館講座や市町村事業での講師やパネリスト、自治会行事での出演依頼などの照会があり、行動人情報が人材活用に生かされるようになってきた。今年度は、当センターで把握している限りでは12件の要請があった。Webサイトでは、行動人の連絡先を明記して直接依頼や交渉もできる場合もあるため、実際の活用事例はもっと多いと考えられる。本サイトの運営や広報によってこのような動きが促進することを当初からねらっており、成果が実感できるようになってきた。

第3章 県内公民館の特色ある取組追調査

I 地域課題や現代的課題の解決につながる講座や取組①

鹿角市十和田市民センター

市民のチカラ事業「鹿角観光いろはカルタ〈十和田版〉」

1 事業概要

(1) 事業の趣旨・ねらい

カルタを通じて地域の観光資源や歴史・伝説、伝統芸能、人物などについて関心を持ち、ふるさとへの愛着を高める。



(2) 事業内容・プログラム

①市民のチカラ事業実行委員会の立ち上げと企画（平成22年）

- ・実行委員の委嘱と委員会開催
 - ・組織、事業、予算等について、カルタ題材場所ツアーや新春カルタ大会の開催について
- ※実行委員会は事業実施前にその都度開催（年3回）

②カルタの読み句と絵の募集・作成（平成23年）

十和田管内に呼びかけ、小中高児童生徒及び一般の方々から応募された作品を元に『鹿角観光いろはカルタ十和田版』を作成した

③第1回新春カルタ大会開催（平成24年1月、以後毎年開催）

募集製作したカルタを活用し、小学生から高齢者までの参加により、毎年1月にカルタ大会を開催している。団体戦、個人戦の競技とし、約50名ほどの参加がある。加えて家族や友人などの応援、審判や読み手等運営に当たる人たちを含め多くの地域住民が参加し盛り上がりを見せている。高齢者からは小さいカルタだと見えづらい等の要望もあり、二回りほど大きいものを製作したところ参加者の増加も見られた。



新春カルタ大会

④カルタの題材巡りツアー実施（平成24年秋、以後毎年実施）

カルタ製作時に採用された題材場所等を巡るバスツアーを開催している。カルタに描かれた場所を訪れるという企画を2年前から実施し、今年9月の実施で3回目を迎えた。参加人数も30名の募集に対して毎回ほぼ定数の応募があり、子どもから高齢者まで幅広い層の参加がある。

地域の観光地や歴史・伝説、伝統芸能、人物、食材に関する題材場所を訪れ、あらためてふるさとの魅力に触れ、豊かな歴史と自然を再認識した。



題材巡りツアー
(北限の桃もぎ取り体験)

主なツアーカードは、毛馬内盆踊りが開催されている「こみせどおり」、「大湯環状列石（ストーンサークル）」や、若者と政子姫の悲恋物語が残る「錦木塚」、イワナを食べて竜になった「八郎太郎伝説」、ルート103号線沿いの「滝めぐり」、「北限の桃もぎとり体験」、大湯温泉「足湯」等で、歴史と伝説に彩られた鹿角の里を楽しんだ。

⑤「雪上カルタ大会」（平成25年2月、以後毎年開催）

冬のイベントの一環として、大湯ストーンサークル館を会場に毎年2月に行われている「雪に親しむレクリエーション『スノーサークルマンフェスティバル』」の中で雪上カルタ大会を開催した。小学生を対象にして、A3サイズの大型カルタを使用し、大いに盛り上がりを見せている。



雪上カルタ大会

2 アンケート結果・評価等

バスツアーに参加した人からは、「あらためてふるさとの魅力に理解を深めた」と感心する声が上がった。また、案内人の説明に真剣に耳を傾け「近くに住んでいても初めて来た」「このような所があることを知らなかった」「地元のことを知る勉強になった」といった感想を話す人もおり、地域の豊かな自然と歴史を再認識していた。次回も参加してみたいとの声も多く聞かれ、小学生や高齢者からは「カルタ大会に参加するまで面白さがわからなかったが、参加してみると以外と面白く、本気になる」という感想が出され好評であった。

3 成果・課題・今後の方向性

(1) 成 果

- ・「歴史」「伝統」「芸能」「伝説」「自然」「食」等、地域の財産を再認識するために欠かせない事業となっている。
- ・バスツアーの題材場所巡りには限りがあるが、「カルタ大会」を継続していくことで、ふるさとの良さを再認識する「きっかけづくり」になる。特に、子どもたちが継承していくためには楽しみながら学ぶことができる「最高のツール」として定着してきている。

(2) 課題と今後の方向性

- ・題材場所バスツアーは場所等が限られるが、コース設定や開催季節の工夫を凝らしながら進めたい。
- ・カルタ大会は1月に限定したものではなく、様々な機会を捉えて継続開催していきたい。
- ・参加者募集に苦慮しているので、参加率アップにつながる開催内容にすることがこれから課題である。

参考にしたい点

- 読み句とそれを表すイラストが、十和田に住む小中高校生から大人まで全て自作の作品であることがカルタの魅力を増していると思われる。
- カルタに読まれた場所へのバスツアーを行うことによって、住民がふるさとに一層の愛着を持ったり、地元に住んでいながら初めて訪れてその良さを再認識したりすることで行動するきっかけを生み、ふるさとの宝の掘り起こしに一役買っている。

I 地域課題や現代的課題の解決につながる講座や取組②

五城目町中央公民館

高齢者学級事業「率浦(いそら)大学」

1 事業概要

(1) 事業の趣旨・ねらい

積極的にまちづくり、地域づくりに参画していくため、親しみ合いながら新しい知識を習得する。また、まちづくりの課題や問題の解決につながる学習会を開催する。

(2) 主な事業内容・プログラム

率浦大学は五城目町の60歳以上の町民を対象にした高齢者学級である。学生(受講生)の中から運営委員を選出し、自地域の課題や問題の解決につながる一年間の学習を主体的に企画している。また、秋には実行委員会を開催して率浦大学祭を企画・運営し、大学の充実や地域の発展に貢献している。本年度は8回の学習会を実施し、12月には率浦大学祭を開催した。

①学習会の開催(主なもの)

○第2回「町議会一般質問の傍聴」

テーマ「議会傍聴することにより町政への关心と理解を深める」

内 容・議会傍聴者の心得を確認し議会を傍聴した。

○第4回「秋田県防災学習館・天鷲村見学」

テーマ「防災に関する知識や対応方法を習得する」

「亀田城ゆかりの歴史に触れる」

内 容・秋田県消防学校に併設されている防災学習館

において、火災時の煙中や地震を体験し、非常時の対応の仕方を学んだ。

・天鷲村内の資料館を見学し亀田城ゆかりの資料を見学した。

・亀田城下を模した村内を散策し、亀田の城下町での生活に話題が及んだ。

○第5回「国際教養大学・国際ダリア園・さきがけ印刷センター見学」

テーマ「国際教養大学を訪れ、県内外でも評価の高い大

学の施設を見学し、開学の理念に触れる」

「開花の最盛期を迎えたダリア園を散策する」

「新聞の印刷等の工程を知る」

内 容・大学内の教室で学風・特色の説明を受け、案内を受けながら学内を見学した。

・国際ダリア園内を散策した。

・日頃親しんでいる新聞の印刷工程の説明を受けながら見学した。



議場の前で記念写真(町議会傍聴)



大学の講堂で(国際教養大学)

②率浦大学祭の開催

テーマ「町の高齢者学級に参加している学級生が一堂に会して学生間の交流を図り、新しい知識を習得しながら、健康で楽しい暮らしを確立する」

内 容・大学生による体験発表(2名)

・講義「くすりと暮らしの教室」

秋田薬剤師会 近江 健 氏

※生活習慣病予防のための健康づくりについて

・芸能発表、作品展示、懇親会等



率浦大学祭作品展示

2 アンケート結果・評価等

(1) 学習会について

- ・議場という権威ある場での議会議員の質問と町長の答弁は重みがあり、町政への関心を高める場となった。
- ・秋田や東北で大規模な災害が起きていることもあり、いつ起こるかわからない災害への備えとして体験的に学ぶことができた。
- ・貴重な歴史資料等を見学することで、当時の出来事に思いを馳せる一方、現在の施設の維持管理についても考えさせられた。
- ・国際教養大学やさきがけ印刷センター、その他様々な施設を見学することで、日常とは大きく異なる世界を体感した。充実した施設設備や技術の高さ、そこに関わる人たちの様子を目の当たりにし、参加者にとって貴重な体験となった。

(2) 率浦大学祭について

- ・実行委員となった方や体験発表の担当となった方は、自負と責任をもって取り組み、もっている実力を發揮できる機会となっている。
- ・作品も多数出品され、学生たちの日頃の研鑽の発表の場となっている。
- ・大学祭は実行委員には苦労をかけているが、講義や発表、交流と充実した内容で皆楽しみにしている。
- ・講義は日常生活の中で関心の高い身近な「薬」についての知識を深めるよい機会となった。



みんなで交流(率浦大学祭)

3 成果と課題・今後の方向性

(1) 成 果

- ・学生が主体となって運営委員会を組織し、学習を企画・立案・実施することにより、新しい知識の習得や自ら学ぼうとする意識が高揚し、積極的に町づくりに参画しようという意識が徐々に高まってきている。
- ・大学生の趣味を通じての作品の展示、芸能発表など日頃の成果を発表する場となっている。（絵画・手芸・俳句・書・舞踊・歌・楽器の演奏など）
- ・学習会のほかに年3回の運営委員会をもち、学習会の運営について協議することで、運営の仕方や内容が充実し、次年度へのつながりをもたせることができている。

(2) 課題と今後の方向性

学生自らが主体となって学習計画を立案しており、更なる学習意欲の向上を図ることができたが、レクリエーション的な要素を含んだ学習会が多くなる傾向にある。今後は、バランスの取れた学習内容にするとともに、事業の成果を高めるために「学習の振り返り」なども必要であると考える。また、新たに習得した知識や体験を、いかにしてまちづくりや地域づくりに結び付けていくかを検討すべきと考える。

参考にしたい点

- いわゆる高齢者学級は多くの市町村で実施しているが、率浦大学は受講生自身が運営委員や実行委員を務め主体的に企画運営されている。このことが、自ら学ぼうとする意識やまちづくりに参加しようとする意欲の高まりにつながり、地域の活性化に好影響を与えていている。
- 運営委員には長く続いている人もいれば新しく就任する人もいて、経験に基づく学習内容と、新鮮な視点による提案がうまく機能している。
- 事務局を担う公民館職員と、企画運営に当たる運営委員とがそれぞれの役割を担い、良好な関係で学級が運営されている。

I 地域課題や現代的課題の解決につながる講座や取組③

北秋田市中央公民館

公民館による「おらほの地域応援し隊プログラム2014」 “Gちゃん”サミット in 北秋田市

1 事業概要

(1) 事業の趣旨・ねらい

- ①少子高齢化が進む中で、元気に活躍している高齢者の方々が自ら生涯学習を楽しんでいる様子や地域づくり活動を紹介し、新たな生きがいを求めて活動する楽しさを分かち合う。
- ②公民館を核とした世代間交流や地域間交流をとおして地域貢献活動を広げ、元気な地域づくりを推進する。

(2) 事業内容（開催のきっかけ）

『Gちゃんサミット in 北秋田市』

“Gちゃん”とは「グランドファザー」「ゴールド」「元気」「グレイトで経験豊かな方々」の総称として名付けた造語である。北秋田市では、公民館講座やサークル、地域のイベント等に女性は多く参加しているが、男性（特に高齢者）の参加者が少ない。また、外へ出る回数が少なくなると引きこもりや健康上に支障が増えることも懸念される。一方、学校支援地域本部事業や地域活動等においては元気な高齢者が多く活躍している状況もある。そこで、地域課題となっている少子高齢化の打開策としての取組を深めることを目指して標記の事業を開催した。

〔留意した点〕

- ・北秋田市誕生から10年目を迎えた節目として生涯学習の原点を学ぶ機会とする。
- ・小学生、高校生、高齢者、養護学校（絆カフェ）、近隣市町（大館市や三種町）等多様な世代や立場の人々との交流を図る。

(3) プログラム

①基調講演：演題「老いるほど光るように」 講師 小畠勇二郎顕彰会会長 浅利 司 氏
生涯学習の先駆者（元秋田県知事）小畠勇二郎氏の功績をとおして生涯学習の真髄を学ぶ。

②シンポジウム：テーマ「元気をつなげる人間パワー」

各公民館を通じて旧4町（鷹巣・合川・森吉・阿仁）からシンポジストを推薦し、各地区での活動事例紹介をしながら会場との意見交換を含むトークセッションを行う。

- ・鷹巣 長岐直介 氏（おさるべ元気くらぶ）
「葛黒の火祭りかまくら復活」について
- ・合川 村形栄悦 氏（合川駅前地域活性化協議会）
「駅前自治会による地域おこしイベント」について
- ・森吉 金 新佐久 氏（唱歌を歌う会講師）
「唱歌をうたう会を通じた、地域×元気活動」について
- ・阿仁 戸嶋 喬 氏（阿仁合ぶらぶらガイド）
「2年目を迎えるボランティアガイド活動と阿仁合
小学校での小学生ボランティア養成活動」について



シンポジウム

③元気団体・名人実演コーナー

- ・レクリエーションダンス ・おはなしの会「クローバーZ」
- ・詩の朗読 ・書道パフォーマンス（北鷹高校書道クラブ×高鷹大学）
- ・みんなで歌いまショータイム ・スコップ三味線（北秋田三味ガールズ×三種ベンベン）

④元気団体・名人体験コーナー

- ・クラフト「モール犬」 ・バルーンアート ・木工グッズ～マイ箸づくり ・囲碁名人
- ・将棋名人 ・ペーパークラフト～マイ箸置 ・健康吹矢（健康吹矢同好会）



スコップ三味線



書道パフォーマンス



名人体験コーナー

2 アンケート結果・評価等

- ・浅利先生の基調講演は、本当に良いお話をしました。私たちが今やっている事に色付けをして元気に頑張りたいと思いました。
- ・書道パフォーマンス、スコップ三味線コラボ演奏、最高でした。
- ・男性を社会活動に引き出していくことの課題を感じました。
- ・市外からの参加者を大事にしてくれていることが分かり良かったです。若い人が参加すると会場が華やぐし、会が活性化すると感じました。
- ・公民館のあり方、地域づくり、リーダー育成、考えさせられる良いシンポジウムでした。
- ・勇二郎氏のことば「きのうを忘れ、今日を喜び、明日を楽しむ」。これから人生の着陸点をみつめ直し、元気に頼れる老人である為にがんばっていきたい。
- ・北秋田市の地域活性化のために活動しておられる様々な団体さんの連携（＝ネットワークづくり）がとても大事だと思います。これは公民館にしか出来ない重要な事業だと考えます。
- ・これからも公民館を中心とした「人づくり」をしてほしい。

3 成果と課題・今後の方向性

(1) 成 果

- ・元気に活躍している高齢者に光をあてるにより、活動の楽しさや人との交流について改めて考えることができた。主に男性（Gちゃん）にスポットをあてたが、女性の協力も随所に見られ、男性・女性共に盛り上がりを見せた。
- ・新たな生きがいづくりや地域での仲間づくりなど、全てが生涯学習であり、基盤づくりを推進した小畠勇二郎氏、鈴木健次郎氏の偉業についてあらためて学ぶことができた。
- ・各地域のシンポジストがイキイキと語り、地域ぐるみで「地域活性化」を考えようとするきっかけづくりとすることことができた。
- ・高齢者の知恵や技を子どもたちや高校生に注ぐ様子が見られ、良い異世代交流ができた。
- ・地域がなくなるのでは、という閉塞感の中、何かをしなくてはいけないと気付かせてくれるのが公民館であり、人が集い活動できる場としての公民館であり続けなければならない。

(2) 課題と今後の方向性

- ・Gちゃん（男性）サミットばかりでなく、Bちゃん（女性）サミットの開催を希望する声もあるが、方向性を明確にするためにもGちゃんサミットとして開催したい。
- ・高齢者が家の中に引きこもるケースを減らすための良いモデル事業にしたい。
- ・高齢者問題ばかりではなく、男女共同参画、学校支援地域本部事業も含め、全てに通じる学びが「生涯学習」であることを確認できる取組を継続していきたい。
- ・「地域づくりは人づくり」「ふるさとに自信と誇りをもてるような活動」「やる気がある人を引き出し、それを人づくりに結び付けることが大切」など、出された課題に向けて、公民館を核とした活動の中から解決の糸口を引き出せるような取組を進めていきたい。
- ・キーワード＝「交流」であることを念頭に、地域間交流や世代間交流、組織間（行政間）の交流の場として取組を継続していきたい。
- ・地域での活動に関わる人を増やすような横の連携を重視し、地域を超えた仲間づくりを図るなど、更に楽しめる方向性を見い出したい。
- ・単発で終わらず、継続かつ広がりのある取組としていきたい。

参考にしたい点

- 「交流」をキーワードに小・中・高・養護学校、各種団体、行政他機関等様々な主体と連携が行われている。
- 高齢者学級と高校生とのコラボ、地域の名人による体験コーナーの開設等、世代間交流を図る仕組が随所に織り交ぜられ、参加者の満足感につながっている。
- ともすれば市の中心部に活発な活動が偏りがちになるが、本サミットでは、旧4町それぞれの活動の情報を交換することで地域間交流が図られ、全市的な取組につながっている。

Ⅱ ボランティアや指導者養成、地域づくりへの参画など人材養成につながる講座や取組①

横手市 栄公民館

お気楽ものづくりサロン

1 事業の概要

(1) 事業の趣旨・ねらい

- ① 自分の時間づくりや仲間と語らうことでの一人暮らしの不安解消、冬期間の暖房費の節約などのエコも取り入れた「たまり場」を目指すもの。
- ② 参加者が互いに教え、教わるサロンとして、人材育成を図り、学びから地域づくりに取り組むもの。

(2) 事業内容・プログラム

- ・平成23年2月より、「公民館へおざつてたんせ企画」として冬期間限定でスタートした。実施日は毎週水曜日の午後に設定。
- ・公民館報で「手芸、工芸、折り紙、編み物など趣味で行っているものを持って来てください。何もしなくても誰かと話したいという方もOKです」と募集したところ、最初は2~3人だった参加者が、口コミで広がり、10~15人ほど集まるようになり、徐々に活気付いていった。
- ・取り組み内容は、編み物やパッチワーク、籠バック作成、お話が中心の方など様々で、それぞれ自分の時間を思い思いに楽しんだ。



サロンの様子



仲間と編み物・パッチワーク作り



コーヒーで談笑



バッグ作成中

- ・お気楽に集い、自分の時間を楽しめる空間が好評で、平成24～25年は「継続してほしい」という参加者の強い要望により開催を決定した。
- ・年数を重ねるごとに、お互いに先生になって得意な分野を教え合えるようになった。また、仲間の一人が来なかつたときは、心配する声なども上がるようになり、サロン参加者の仲間意識が強くなつていった。
- ・平成26年4月からは、冬期間だけではなく定期的に活動したいという気運が高まり、自主サークルとして活動を始めている。

2 アンケート結果・評価等

- ・参加者自身がとても生き生きしている。サロンに参加し、仲間と和気あいあいと活動することが日々の生活をも楽しくさせているようだ。
- ・公共の施設を開放していることで、気兼ねなく、また、拘束されることなく自分の好きなものづくりなどをすることができ嬉しいとの声が上がっている。
- ・自分の得意とするところは仲間に教えてあげ、分からないこと、やってみたいことは教えてもらうことができる環境が良い。
- ・自分の役割ややりがいを見付けることができたという方もいる。

3 成果・課題・今後の方向性

(1) 成果

- ・東日本大震災においては、自主的にお米を集めて送ったことやタオル帽子などを作り、老人介護施設に寄付を行うことなど、一人ではできなかつたり、勇気がなくて踏み出せなかつたりしたことがサロンに集うことでできるようになった。
- ・中には地域の小学校へミシンを教えに行くようになった方もおり、自分たちだけが楽しむだけではなく、社会へ目を向けて、自分が学び得たことを地域に還元していく形ができるつつある。
- ・情報と人が集まる自由なサロンからの仲間づくりから自主的に運営していく形へつなげることができたことは大きな成果だったと感じる。

(2) 課題・今後の方向性

- ・今後も、地域の方々が自分の役割、やりがい、生きがいなどを見付けることができるようなサポートを続けていきたい。

参考にしたい点

○地域住民が気楽に集い、自分の時間を楽しめる空間を提供し、参加者が自然な姿で普段の学び（得意技）を披露し、互いに「先生」となり教え合うことができるような雰囲気づくりをしている。さらに、参加者が自主的に学びを行動に生かす活動を支援している。

II ボランティアや指導者養成、地域づくりへの参画など人材養成につながる講座や取組②

由利本荘市中央公民館

大学生が教える家庭教育講座「夏休み親子体験入学」

1 事業の概要

(1) 事業の趣旨・ねらい

第2次由利本荘市生涯学習推進・社会教育中期計画に示された「進取の気性を育む学校教育の推進」に伴う学社連携・融合の取組として、公民館で行われている講座開催の機会を大学生に提供することで、市民と学生が互いに自己の学びを深め、市と大学が、連携・協力して生涯学習の取組を推進することを目指している。

(2) 事業内容・プログラム

<講座内容（時間割）>

- ・ 1時限目：夏の星座と神話の紹介
(県立大学 天体観測サークル)
- ・ 2～4時限目：3グループに分かれ、下記①～③の内容を順番にそれぞれ体験する。
 - ①エアチャージカーで圧力を学ぶ
 - ②算数パズル
 - ③風船電話で音の学習

おまけ：ペットボトルロケット打ち上げ
(①で圧力を学習した結果を踏まえて)

<工夫した点>

- ・ 現代の家庭機能の変容と弱体化に対処し、家庭教育の向上に役立つ講座内容に努めるよう力を入れた。
- ・ 学生個々の得意分野（専門知識）を引き出し、小学生でもわかる身近な「もの」を使用して、学習できる内容に努めた。
- ・ 大学生の他、県立大学への入学を目指す高校生にもスタッフとして協力を要請した。
- ・ 夏休みは、家族でのんびり楽しく過ごせる貴重な機会。ただ聞くのではなく、記憶に残る、いい思い出になるよう親子が一緒になって取り組むことができる「ものづくり」を体験する時間を設けた。
- ・ 当日は学生気分を味わってもらうため、大学の講義に合わせ、時間割は時限、グループ名は学科で統一した。また、会場は学生が普段講義で利用している教室を使用した。



夏の星座と神話の紹介



算数パズル



エアチャージカーで圧力を学ぶ

2 アンケート結果・評価等

『アンケート調査の結果について』

このことについて、参加した保護者を対象にお願いしたところ、22世帯のみなさんから（回答率100.0%）ご意見・要望をいただきました。結果は下記のとおりです。

1. 今回の講座に参加した感想をお書き下さい。

①よかったです。 ②普通。 ③よくなかった。

(理由)

①講座内容について

【回答】：子供がとても興味を持って聞いていて、また、大人も楽しめたのでよかったです。
・星座は楽しかったけど、興味を持つよいきっかけになったと思う。
・学生さんの一生懸命さが伝わり、とてもよかったです。
・エクサグーカ、算数、風船は子供の好きなものばかりで、とても楽しそうでした。
・学生さんが明るく優しかったので、質問しやすかったです。
・星座の一等星とか基本的な部分を子供は知らないので説明してほしかった。
・スライドにアニメーションとか動きのあるブレインをするどもつとよかったです。
・思います。また、低学年には難しい内容だと思いました。（星座・算数）
・休日に学生の方々先生も皆さん一生懸命教えて下さって楽しく過ごしました。
・実際に体験できるのでわかりやすかったです。特に星座が楽しかった。
・身近な題材を面白く取り上げてもらったので、子供も動きやすくなりました。
・星座は、一方的に話すのではなく、星座の話をする前に星を見たことがある？など問い合わせなどするとともつとよかったですかも。
・子供達にとって、わかりやすい面白い内容だったと思う。また、大人にとつても且興味わうことができない時間を過ごすことができた。

②開催場所（県立大学本荘キャンパス）について

【回答】：とてもきれいでびっくりした。・空調も良く、静かでよかったです。
・本荘地域から近いこと、普段入れない場所という事で子供もとても喜んでいた。
・車いすでも使えるので、古い建物よりもとてもよいと思う。
・生徒さんがとても親切で助けてもらいました。
・今までにない広い空間での授業でしたのでよかったです。
・めったに入ることが出来ない施設なので貴重な機会であったと思う。

2. 今後どのような講座を希望されますか。

①講座の内容について（おまかせ記載で結構です。）

【回答】：サイエンス・子供が喜ぶような実験・電気・光の学習
・ものづくり・エアチャージカー等遊びながら学べるもの
・宇宙・化石について・化学の実験・国語力（言語・読解力）について

②開催時期について（できましたら曜日・開催時間帯もお書き下さい。）

・開催月 月曜 【回答】 8月(59.0%)、10月(9.0%)、未記入等(32.0%)
・開催曜日 曜日 【回答】 土曜(50.0%)、日曜(27.3%)、未記入等(22.7%)
・開催時間帯 午前・午後 時頃から 【回答】 午前9時(81.8%)、未記入等(18.2%)

3. 公民館事業等についてのご意見をお書き下さい。

【回答】：長期休業中（夏休み、冬休み）の子供向けの行事を増やして欲しい。
・昨年も参加したので続けて欲しい。来年も企画して欲しい。
・今後もこのような企画をお願いします。
・親子講座を今後も継続してください。とてもいい体験だと思います。



風船電話で音の学習



ペットボトルロケット打ち上げ

3 成果・課題・今後の方向性

(1) 成果

日頃なかなか入ることのない大学を活用し、様々な体験をさせたことで、子どもの自主的な学習意欲の向上が図られた。また、学生の学習成果を地域社会に還元することで、学生のボランティア意識が養成され、社会性の向上が期待される。

(2) 課題・今後の方向性

本講座は、今年で4回目の開催となったが、絶えず人気があり、毎年募集定員を上回る申し込みがある。「もの」から「こころ」を大切に考える価値観の転換の時代を迎え、身近な生活文化を見直し高める諸活動の充実を図り、今後も継続して実施したい。また、毎年違った講座内容を大学生と協力して考案し、小学校低学年からでもできる（わかる）身近なテーマの選定や協力可能なスタッフ（学生等）の確保に努め、今後は中学生や高校生向けの講座も検討し、大学との連携を更に強化したい。

参考にしたい点

- 大学生（高校生）が普段学んでいる成果を、地域住民に向けて自主的に発信・活用する場を提供している。
- 地域にある高等教育機関「大学」の有効活用を図り、地域住民にとって身近な存在として捉えてもらうための提案をしている。

II ボランティアや指導者養成、地域づくりへの参画など人材養成につながる講座や取組③

能代市中央公民館

高校生ボランティア育成講座

1 事業の概要

(1) 事業の趣旨・ねらい

高校生を対象に、地域行事やボランティア活動に関わる機会の拡充と参加促進を図る。

(2) 事業内容・プログラム

<事業内容と流れ>

- ・年度当初に地域の高校へJRC担当顧問照会
- ・各高校担当顧問へ年間スケジュールを持って挨拶まわり
- ・各企画毎に高校生ボランティア募集
- ・高校生ボランティア育成講座事前学習会開催
- ・高校生ボランティア講座開催
- ・アンケートとりまとめ

<高校生ボランティア講座の主な内容、工夫した点など>

①のしろ子どもまつり 2014

- ・開催数日前に事前学習会を行い、講座の趣旨や注意点を説明し、のしろ子どもまつりの実行委員長からまつりの詳細等を説明いただいた。
- ・開催当日は、テント設営などの準備を行い、各ブースに高校生を配置した。
- ・遊びに来た子どもたちに丁寧にやさしく接する姿が見られた。また、昔遊びコーナーでは一緒に体験することもあり交流が深まった。

②ひまわり号走る

「障害のある人もない人も、子どもも高齢者も、列車の旅『ひまわり号』を通して、障害福祉への理解と共生、ともに育む社会を目指す街づくりを考える。」という趣旨で開催した。

- ・開催前日に事前学習会を行い福祉ボランティアへの理解と当日の自分の動向を確認した。
- ・当日は高校生ボランティアがプラカードを持って各班をまとめる役目をした。
- ・昼食の準備や片付け等を手伝う。昼食は一般



高校生ボランティアによるテント設営



高校生ボランティアの参加者への対応



高校生ボランティアによる参加者の整列

ボランティアの方から豚汁やおにぎりが振る舞われ、親睦が深まった。

2 アンケート結果・評価等

(1) のしろ子どもまつり2014

「楽しく子どもたちと触れ合えて良かったです」「子どももそうですが、大人の人たちとの関わり方も学びました」「将来子どもと関わる仕事がしたいと思っているので、今回たくさんの子どもと交流できて良かったです」など、違う世代と関わることができて概ね好評だった。



高校生ボランティアによる参加者の案内

(2) ひまわり号走る

「私は初めてひまわり号に参加しました。私は今までのボランティアではあまり高齢の方や障がいをもった方々と交流することができなかったので、いろいろな話を聞くことができました」などの感想があり、朝早くから夕方まで一日を通しての活動だったが、様々な活動と触れ合いを通して新しい自分を見付けた様子だった。帰りはとても清々しい表情でまた来年も来たいという声が聞かれた。

3 成果・課題・今後の方向性

(1) 成果

- ・昔の遊びを大人から学びそれを子どもに伝える橋渡しの役割を担うことができた。
- ・「ひまわり号走る」では、一般の様々なボランティアの方と協力して活動することにより、ボランティア活動に対する視野が広がった。
- ・高校生にとって将来の就職について考えるきっかけになった。

(2) 課題・今後の方向性

- ・ボランティア活動に対しては理解を深めることができたが、参加するだけではなくその後の育成につながる仕掛けづくりを考える。
- ・アンケートを見ると、最初は不安だったが参加して良かったという声が多数あるので、ボランティア活動に参加しやすい働きかけを考える。

参考にしたい点

- 高校生ボランティアに対して事前学習会を開催し、その学びをそれぞれの活動に生かすことができるよう工夫している。
- 学んだことや活動したことについて、その後のボランティア育成や将来の職業選択につながる仕掛けづくりを考えている。

III 子育てや家庭教育につながる講座や取組①

美郷町・美郷町公民館

家庭教育講座

1 事業の概要

(1) 事業の趣旨・ねらい

- ①子どもの心身ともに健やかな成長を願い、保護者が家庭の重要性を認識し、親の役割などについて知ることができるよう情報の提供を行う。
- ②子どもと保護者に家庭教育に関する学習機会を提供する。
- ③家庭・学校・地域社会等が連携協力し、町全体で子ども・若者を育成支援できる体制作りを推進する。
- ④子育ての充実を図る。

(2) 事業内容

子どもの成長段階に合わせて、小・中学生や保護者に向けて、講座を実施した。

①就学時健診子育て講座（就学時の保護者が対象）

家庭での子どもへの接し方やしつけ方を学んだ。また、参加型の講座で、保護者同士のコミュニケーションの向上を図った。

演題：「子育てがぐいっとラクになるタイプ別子育て」

講師：陽だまりサロンオーナー 若松 亜紀 氏

演題：「心の休み時間作ってみませんか？」

講師：パステル和みアートインストラクター
高橋 みどり氏



受講者の話し合い



親子で落語を楽しむ会



真剣に聴きに入る中学生



親力について語る講師

②子どもと親の想像力アップ講座

（小学生とその保護者が対象）

落語は、想像力と感性の向上に役立つので、講座の講師に落語家を招き落語を体験した。

演題：「親子で楽しむ落語の会」

講師：前秋田お笑い大使 桂 三若 氏

③思春期の心を育てる講座（中学生とその保護者が対象）

夢をもち続けることの大切さ、自分の考えで行動できる人になることなど、力強く生きるために必要な考え方を学んだ。

演題：「次の夢への一歩」

講師：夢を追う男 阿部 雅龍 氏

④親力アップ講演会（全町民が対象）

保護者が、家庭の重要性を認識し、親の役割について学んだ。

演題：「今いちばん必要な親力とは？」

講師：教育評論家 親野 智可等 氏

2 アンケート結果・評価等

- ・就学時健診子育て講座

参加者同士がコミュニケーションを取りながら、作品の制作をすることができた。参加型の講座でとても有意義な時間を過ごすことができた。

- ・子どもと親の想像力アップ講座

落語のお話だけでなく、扇子や手拭いを使い身振り手振りで想像力を高める芸や、ダジャレを使った言葉遊びで子どもたちとコミュニケーションを取りながら、飽きさせない内容で大変良かった。

- ・思春期の心を育てる講座

生きることの尊さや夢をもつことの大切さなど、進路を考える上で参考になった。

- ・親力アップ講演会

楽しい話と分かりやすい講演で説得力もあった。これから子育てを頑張っていきたい。

3 成果・課題・今後の方向性

(1) 成果

- ・就学時健診子育て講座

初めて小学校に子どもを入学させる保護者にとっては、不安の解消に役立った。

- ・子どもと親の想像力アップ講座

子どもと保護者の想像力・感性を高めることができた。

- ・思春期の心を育てる講座

思春期の子どもをもつ保護者の家庭教育に関する学習の機会を提供できた。

アンケートの結果を見ると前向きな回答が多く、受講した多くの中学生の心に響いたと思う。

- ・親力アップ講演会

家庭教育の重要性や親の役割を認識することができた。

(2) 課題

- ・家庭での子どもへの接し方、しつけ方、環境など問題のある家庭が多くなっている。その影響が学校での問題へ絡んでくることが多いため、できるだけ学校を巻き込んだ家庭教育の取組が必要である。

(3) 今後の方向性

- ・学校やP T Aと連携を密にしながら、開催時期や周知方法を検討し、家庭教育に関する講座を充実させていきたい。

参考にしたい点

○子どもは、地域の宝であるという意識が醸成されており、学校・保護者・地域が一体となって家庭教育に取り組んでいる。

○子どもの成長段階（就学時前、小学生、中学生）に応じて、様々な講座を組んで学びが連続するような工夫をしている。

○子どもが親になった時のことを意識して、学びの循環になるように講座を組んでいる。

III 子育てや家庭教育につながる講座や取組②

秋田市・河辺市民サービスセンター

親子体験まるごと塾

1 事業の概要

(1) 事業の趣旨・ねらい

地域企業との連携で、地域の特産品を活用した手作り体験を通して、親子の絆と参加者同士の交流を図る。また、河辺地域の特色を広くPRする機会とする。

(2) 事業内容

学校が休業日である土曜日と夏休みに、小学生の親子（家族）を対象に実施した。

河辺地域の活性化に資するため、講師は河辺地域の企業や在住者とし、手作りワインナーワークshop、陶芸皿作り体験、手打ちそば作り体験を通して、河辺地域の新たな発見につなげた。陶芸皿作り体験と手打ちそば作り体験は、できた陶芸皿で、手打ちそばを盛り付けして試食することで、物作り体験をシリーズ化して、親子で作る楽しみの機会を提供した。

①親子ワインナー作り体験

地元企業に依頼し、ワインナーが商品になるまでの課程を説明していただき、実際に器具を使用し手作り体験した。また、地元企業が作っている製品が学校給食の食材であることを知る機会となった。自分たちが作ったワインナーと一緒に食卓を囲み参加者は満足げだった。

講師：秋田県食肉流通公社職員

会場：河辺総合福祉交流センター



親子ワインナー作り体験

②親子陶芸体験

地元陶芸家に依頼し、絵皿作りを体験した。その絵皿を河辺まるごと祭りに展示をし、さらには次回に行うそば作り体験の器に使用した。

講師：不銛（ふげん）窯 杉本 紀一郎 氏

会場：不銛窯工房



親子陶芸体験

③親子そば作り体験

地元愛好家に依頼し、練ることから、切る、そして茹でるところまで一通りの流れを体験した。終了後は、自分で作ったそばをおなかいっぱい食べ、満足な様子だった。

講師：二木 文隆 氏 藤原 一成 氏

会場：河辺総合福祉交流センター



親子そば作り体験

2 アンケート結果・評価等

親子で充実した時間を過ごせ、貴重な体験をしたという好評の感想が多かった。

3 成果・課題・今後の方向性

(1) 成果

- ・物作りを通じ親子でふれあう貴重な機会とすることができた。
- ・普段、個人や家庭ではできない体験をする機会を提供できた。
- ・他の親子と体験を共有し、子どもの成長につなげる機会を提供した。

(2) 課題

- ・家族で一緒に物作りをすることが、少なくなってきたので、要望に応じてその場を提供することが必要である。

(3) 今後の方向性

- ・陶芸皿作り体験は、当初から手打ちそば作り体験とセットで企画したもので、今後手打ちそば作り体験が参加者にさらに満足のいく企画となるよう講師と調整している。
- ・アンケートからも概ね好評であることから、事業を継続していきたい。

参考にしたい点

- 親子で交流を深めながら、物作りや家庭では体験できない学習の機会を提供している。
- 地域の企業や人材を有効に活用し、学びの機会を提供している。また、その学びによって地域の再発見につながっている。

III 子育てや家庭教育につながる講座や取組③

大潟村・大潟村公民館

家庭教育学級（乳幼児編）・（小中高編）

1 事業の概要

（1）事業の趣旨・ねらい

子どもたちの健やかな成長を願い、子育てについて広く学びながら、親同士の交流を図る。

（2）事業内容

①家庭教育学級（乳幼児編） 全3回開催

対象 0歳から6歳児を持つ保護者

主に保護者と子ども向けの事業を行い、親子の触れ合いを楽しめる内容で実施した。

・1回目 「リズム遊びを楽しもう」

歌を歌ったり、音楽に合わせて体を動かしたり先生の指示で楽しく動く。

・2回目 「キャラ弁作り」

子育てについて、講師を囲んで学習し意見交換をしながらキャラクターをあしらった弁当作りを楽しむ。

・3回目 「谷先生の読み聞かせ」

絵本の読み聞かせを通して、絵本を読んでもらう心地良さを味わい、子どもに読んであげようという気持ちを育む。子どもは、保護者から本を読んでもらうことによって、本の面白さを味わう。

②家庭教育学級（小中高編） 全6回開催

対象 小学生、中学生、高校生をもつ保護者

様々な子育てに関する悩みについての講演会等を行い、参加者同士での交流ができるような内容で実施した。また、子どもの健やかな成長を願い、家庭教育の充実を図ることを目的として保護者の学習の機会を提供することを大きな目標として実施した。

・1回目 講話「SNSって何？」～大人が支える！インターネットセーフティ～

・2回目 移動研修（藤里町で施設見学）

①藤里町三世代交流館図書室

②白神山地いやしの宿清流館

③cafe 岳

・3回目 調理実習「雑穀と秋野菜を使った体が温まるお料理」



「雑穀と秋野菜を使った
体が温まるお料理」

・4回目 講話「親業コミュニケーション」～子どもの 話の聞き方親の思いの伝え方～

・5回目 講話「子どもたちの健やかな成長を願って」

・6回目 今年度の反省と来年度に向けて

午前 実習「パステル和みアート」

午後「今年度の評価及び次年度の計画・閉校式」



「パステル和みアート」

2 アンケート結果・評価等

家庭教育学級（乳幼児編）

「リズム遊びを楽しもう」や「読み聞かせ」については、「子どもと一緒に楽しく遊べた」「親子で楽しめるところがいい」「みなさんとお話ができた」「家でもできる遊びでよかったです」等、親子の触れ合いを楽しんだという肯定的な感想があった。

一方、「子どもが場に慣れてきた頃に終わってしまった」「子どもを休ませる時間がほしかった」というような意見や要望があった。「キャラ弁作り」については、「簡単でやりやすい」「和気あいあいとできた」「質問しやすい環境がよかったです」等、好評であった。

家庭教育学級（小中高編）

「子どもと向き合う時間の大切さを改めて知った」「自分の子育てを見直す機会になった」「今後の子育ての役に立つ話ばかりで良かった。友人にも教えてあげたい」等の感想をもらった。また、「SNSって何？」～大人が支える！インターネットセーフティ～では、「親子で話し合いながら上手に利用していくことが大切。上から目線のお説教やスマートホンを取り上げることは良くないということなど、付き合い方をこれから参考にしたいと思った」等、気付きを得たり、自身の子育てについて考えをより深めたという意見が多くあった。

3 成果・課題・今後の方向性

（1）成果

- ・乳幼児編では、親子の触れ合う場や読み聞かせの体験をし、その楽しさを味わうことで読み聞かせの大切さを学ぶ機会を提供することができた。
- ・小中高編では、子育てに役立つ情報提供及び悩みを相談し合える環境を作ることができた。
- ・乳幼児編、小中高編に共通した成果としては、子育てについて学習し、参加者同士で情報交換を行いながら交流を図ることができた。

（2）課題

- ・乳幼児編では、子連での参加となるので、保護者や子どもにもう少し配慮した運営が必要だった。
- ・参加者が減少傾向にあるので、対象者のニーズ把握が必要である。

（3）今後の方向性

- ・新しい企画を検討し、学級生登録者の増加を目指し、継続して取り組んでいきたい。

参考にしたい点

- 乳幼児から高校生まで、幅広い家庭の問題に対応した学習の機会を提供している。
- 参加者同士で情報交換を行いながら、お互いに相談しやすい環境を作り出している。

III 子育てや家庭教育につながる講座や取組④

横手市・朝倉公民館

あいあい☆広場

1 事業の概要

(1) 事業の趣旨・ねらい

様々なテーマで家族の触れ合いや参加者間の交流を図り、楽しみながら実施する。

(2) 事業内容

対象 未就園児とその保護者

①「七夕飾りをつくろう！」

日本の伝統文化である折紙と、季節の行事を取り入れた講座を開催した。使用済みのラップの芯などを利用するなど費用があまりかからないように工夫した。また、難しい部分や時間がかかりそうな部分については、事前に作製して準備していたため、参加者が時間内に作品を完成することができた。

②「わいわい野菜収穫体験！野菜たちに会いに行こう！」

子どもたちが土に触れる機会が少なくなってきたことから、土に親しむ機会を設けた。横手市内の農家を訪ね、横手市の特産であるアスパラの収穫を体験した。収穫したアスパラを入れる物として、ウエットティッシュの空容器を利用した。

③「おえかきだいぼうけん！楽しくお花を描こう♪」

縦約110cm・横5mの大きな紙を利用して、その上に子どもたちが座ったり寝そべったりしながらお絵かきを楽しんだ。筆だけでなく、スポンジをガーゼなどでくるんだものに絵の具を付けて絵を描くなど、家にある物を工夫して利用した。

④「絵本を楽しもう！」

図書館ボランティアの協力を得て、本の読み聞かせを体験し、制作した大きな紙芝居や人形劇なども鑑賞した。

また、絵本の読み聞かせに合わせて、子どもたちが声を出したり、ジャンプしたりして体全体で絵本の世界を楽しんだ。

読み聞かせの後は、家庭で読み聞かせの参考にしてもらえるように保護者の方々に子どもの年齢に合わせた絵本の選び方や、お子さんにぜひ読んであげてほしい本の紹介などをボランティアの方々にしてもらった。

⑤「かわいいランチ作り♪」

子どもたちに「食」に対する興味をもってもらいたいと思い、デコレーションランチ作りを実施した。輪切りのウインナーを丸く並べた内側にうずらの卵を割り入れて焼くと花の形になったりするなど、子どもが進んで食べたくなるような食事作りのアイディアについて学んだ。

⑥「おやこの食育教室」

横手市健康推進課職員による講話と調理実習を実施した。

講話では、肥満の子どもが多いという横手市の現状を知るとともに、おやつの上手な食べさせ方やおやつとして好ましいものなどについて学んだ。調理実習では、ブロッコリーとかぼちゃのサラダやミルクかん（寒天）などを作り、子どもの健康な体作りのため、彩りも良くバランスの取れた食事について学んだ。



「おえかきだいぼうけん！」



「かわいいランチ作り♪」

2 アンケート結果・評価等

- ・「七夕飾りをつくろう！」
家庭では作れないような飾りを作ることができたので、参加してよかったです。
- ・「わいわい野菜収穫体験！野菜たちに会いに行こう！」
土に触れる機会がないので、貴重な経験ができ、子どもも喜んでいた。
- ・「おえかきだいぼうけん！楽しくお花を描こう♪」
大きな紙に絵を描くことや絵の具を使うことなど、普段できない体験ができた。
- ・「絵本を楽しもう！」
親の読み聞かせではできない体験がたくさんでき、年齢に合った本の選び方を教えてもらってとても参考になった。
- ・「かわいいランチ作り♪」
子どもと一緒に楽しく作ることができて良かった。
- ・「おやこの食育教室」
子どもたちの現状を聞いて、より真剣に栄養バランスについて考えられるようになった。

3 成果・課題・今後の方向性

(1) 成果

- ・普段はできないような様々な体験を提供し、子どもの情緒を育む豊かな体験の場となっている。
- ・参加者同士の触れ合いの場となっている。
- ・親の学びの場を提供できた。

(2) 課題

- ・「七夕飾りをつくろう！」では、実施期日が限られるために事前の準備が大変だった。
- ・「わいわい野菜収穫体験！野菜たちに会いに行こう！」では、天候に左右されるため、実施にはいつも不安がある。
- ・「おえかきだいぼうけん！楽しくお花を描こう♪」では、講師の方々の事情により今後の依頼が難しい状況になることが考えられる。
- ・「絵本を楽しもう！」では、ボランティアの方々に実施していただいた内容が良かっただけに参加者が少なかったのが残念だった。
- ・「かわいいランチ作り♪」では、参加者が少ないと材料費が足りなくなってしまうという不安が常につきまとう。
- ・「おやこの食育教室」では、「かわいいランチ作り♪」同様の不安がある。

(3) 今後の方向性

- ・豊富な知識を持つ市の関係課や民間などと連携し、更なる学習の機会や場の充実を図るため、市民の多様化・高度化する学習のニーズに適切に対応する。

参考にしたい点

- 普段、家庭では体験できない学習の機会を提供している。
- 子どもを通じて様々な機会に集まることによって、保護者同士のコミュニケーションの場となっている。
- 講師として、地元の人材を活用し、地域の知と行動の循環につながっている。

IV 職業やキャリア開発につながる講座や取組①

秋田市・勤労青少年ホーム

自己プレゼンス講座「自分を上手にPR!印象に残る自己プレゼンス」

1 事業の概要

(1) 事業の趣旨・ねらい

自己分析をして自分を理解し、表現力・会話術を取得し生活に活かす。

(2) 事業内容・プログラム

<主な内容>

自己分析し自己PRの現状把握と、PRの仕方や会話術を学び、就職活動時の面接や日常生活に活かせるポイントを学ぶ。

<プログラム：全3回>

1回目：自己紹介シートにて長所と短所を書き出してもらい、1分間の発表をしてもらう。その発表についての印象を他の受講生に書いてもらい意見交換をする。
エゴグラム（注1）を使用して自己分析をし、見方を学ぶ。

2回目：自・他認知度チェックをし、他人から見た自分との違いを認知する。
参加者間でのそれぞれの印象を話し合い、コミュニケーションを図る。

3回目：自分自身の現状把握ということで、自分から見た自分・周りが言う自分の姿を考え、自分の強み・弱みを認知する。
目標達成のための7ヶ条をもとに、自分の人生設計を書き出し、そのためには今何を行動するかなどを自分で考え、発表する。

<工夫した点>

講師だけが話すことがないように、参加者に積極的に話してもらうよう心がけた。書き物の時間よりも、話し方や話すときの姿勢などについても実践で学んだ。

注1

5つの自我状態の心的エネルギー レベルから性格を分析する手法。
5つの自我状態とは、CP(批判的親)、NP(養育的親)、A(大人)、FC(自由な子供)、AC(順応した子供)であり、質問などによりそれぞれのレベルを判断、その人の性格パターンを分析する。日本では東大式エゴグラム(TEG)やその応用法が流布している。（出典：知恵蔵）



外部講師（キャリアマネジメント専門家）の説明を受けエゴグラム診断

2 アンケート結果・評価等

- ・仕事の都合で途中からの参加でしたが、少しの時間でも受講者の方々と会話をしたりして参加できて良かったです。
- ・少人数ならではのメリットが生かされて、一人一人に丁寧な指導をしてもらいました。ありがとうございました。
- ・レベルの高い内容で大変勉強になりました。自分のことを短時間で説明するのはやはり大変でしたが、今までよりも簡潔に話せるようになった気がします。またこの先生の講座を受けたいです。



積極的に意思表示

3 成果・課題・今後の方向性

(1) 成果

- ・初回の自己紹介では、うつむき加減だった受講者が最終日には、顔を上げはきはきと話すようになり、姿勢が少し変わった。
- ・他の参加者が受け自分に対しての印象を知ることで、自分を見つめ直すきっかけがつくれた。



話し方・話す姿勢のトレーニング

(2) 課題

- ・一般的なニーズは少なく受講を希望する人は限定されてくる。
- ・受講者がその後どのように学習を生かしているか把握できていない。
- ・さらに意欲を高めたり、スキルを向上させたりする発展的な講座や取組をもてていない。

(3) 今後の方向性

- ・再就職などの面接対策用の自己プレゼンス講座を企画し、例年よりも人数が倍近くに上がったので、今後もターゲットを絞ったり目的別に企画していきたい。

参考にしたい点

- 施設の役割を重視し、キャリアの向上や自己啓発に関わる内容を継続して積極的に取り上げている。
- 受講者が少ないという課題を克服するため、面接対策用の自己プレゼンスの企画や、キャリアマネジメントの専門家を外部講師に迎えるなど、ニーズの掘り起こしと、より実践的な講座の提供に努めている。

IV 職業やキャリア開発につながる講座や取組②

秋田市・秋田市女性学習センター

コミュニケーション女性学級関連講座

1 事業の概要

(1) 事業の趣旨・ねらい

人間関係を学び、自分を鍛え、生きる力をトレーニングしていくために、アサーティブトレーニングはとても有効な方法ととらえ、徐々に回数を増やしながら継続してきた。

平成24年度からは、コミュニケーション女性学級として10回の講座と、主に働く女性を対象とした夜の講座を開催している。また、グループをファシリテートできる力を付けるため、「ファシリテーター養成講座」を実施した。さらに、これらの講座修了者が当センターの登録グループとして活動し、「コミュニケーションカフェ」を開催している。

※アサーティブ～自分の考え方・気持ちを自分と相手の気持ちを大切にしながら、その場にあった方法で、率直に明確に相手に伝えること。

(2) 事業内容・プログラム

<コミュニケーション女性学級 火曜日午前 10回>

①基礎コース(4回)

- ・わたしOK、あなたOK—自分を好きになることから始めよう
- ・自分の傾向・状態に気付く・意識化する
- ・自分も相手も大切にするコミュニケーション
- ・基礎コースのまとめ(自己理解・自己受容、なぜ、今アサーティブか)

②ステップアップコース(2回)

- ・アサーティブトレーニングについて基本的な考え方の確認
- ・表現の3つのパターンを体験する
- ・アサーティブコミュニケーションの実践に備えて

③実践トレーニングコース(4回)

- ・「場」を創る
- ・ファシリテーターの役割
- ・グループダイナミクスの活用
- ・ロールプレイング
- ・怒りについて
- ・コミュニケーションとノイズ



コミュニケーション女性学級

<ワークライフセミナー～アサーティブトレーニング～ 木曜日夜 4回>

- ① アサーティブトレーニングの意義と目的
- ② 自分を好きになることから始めよう(自分を知る)
- ③ 相手を理解する・自分の気持ちに気付く
- ④ エリスのABC理論、認知行動療法
- ⑤ 怒り、断り・「NO」・否定の表現、批判への対処
- ⑥ DESC法
- ⑦ よくある事例でアサーティブな表現を体験
(ロールプレイ)
- ⑧ 自分の事例をロールプレイで再体験



ワークライフセミナー

<アサーティブトレーニング・ファシリテーター養成講座 土曜日・日曜日 2日連続>

- ①アサーティブトレーニングについて
- ②自分の課題をロールプレイ（発題者7名）
- ③トレーナー・ファシリテーターとしての留意点

<コミュニケーションカフェ～アサーティブに語ろう～ 土曜日午後 6回>

お茶を飲みながら気軽に日常生活でうまく伝えられなかった気持ちや思いを語り合ったり、アサーティブについて学んだりできる場として定期的に開催している。上記講座修了者による自主グループ「あきたAT研究会」会員を講師として実施。

2 アンケート結果・評価等

- ・自分の人生を振り返り、新たな本当に生きたい自分の人生を歩む一歩になると感じ、また、スタート地点に立てた気がします。
- ・感情と事実を分けて考えることと、人の考え方感じ方はいろいろあるということをいつも忘れずにいたいなと思いました。
- ・アサーティブの勉強を始めて5ヶ月ですが、私のこれから的人生を変えることができそうです。たくさんの学びを得ることができました。ありがとうございました。
- ・同じ事象でも一人ひとりの受け止め方や感情に違いがあることをあらためて感じ、他者の長所や能力を認め伝えることが大切ということも痛感しました。



ファシリテーター養成講座

3 成果・今後の方向性

(1) 成果

- ・受講者の感想にあるように、日常の体験に生かせる学びの場として役立っていることが確認できた。
- ・計画的に開催してきたそれぞれの講座は、女性の社会活動やキャリアアップに大いに役立ち社会参画の推進・拡大につながった。

(2) 今後の方向性

- ・新たにアサーティブを学びたいというニーズに応えるために、夜のワークライフセミナーでのアサーティブトレーニングの学習と、月一回実施している「コミュニケーションカフェ」は継続していきたい。
- ・今後、日中にもアサーティブトレーニングの学習をしたいという要望が多くあれば、それにも応えていきたい。
- ・既学習者の更なる学習の機会として、自主グループ「あきたAT研究会」の活動を支援していきたい。

参考にしたい点

- 入門から実践トレーニング、さらにはファシリテーターの養成、カフェによるケアや実践活動まで段階を追って講座が開催されており、学びが連続し、学習の成果が生かされるよう構成されている。
- 講座修了者を中心に、センターの登録グループとして自主グループを結成し、学習を続けている。この自主グループは、研修を重ね、外部からの要請に講師として出向いていくまでに成長している。
- 受講希望者の様々なニーズに合わせられるよう、講座の開催曜日や時間についても配慮している。

IV 職業やキャリア開発につながる講座や取組③

潟上市・昭和公民館

夏休み中学生ボランティア

1 事業の概要

(1) 事業の趣旨・ねらい

未来を担う子どもたちが地域と触れ合いながら、郷土を愛する心や奉仕の心、思いやりの心を育む機会とし、また、自主性のある子どもを育てるための一助とする。

(2) 事業内容・プログラム

①事業概要

- ・奉仕作業の参加者は羽城中学生とする。
- ・奉仕活動の実施期間は夏休み期間とする。
- ・地域（学区）内の施設（老人福祉施設や保育園等）の協力を得て奉仕活動を体験する機会を提供してもらう。



入浴施設の浴室清掃

②学校と公民館の連携

- ・公民館は、中学生の奉仕作業が必要な各施設の情報を収集し、その情報を中学校に報告する。また、申込があった施設へ募集結果について報告する。
- ・中学校は、公民館から受けた情報を生徒に伝え、参加者を募り、応募者について公民館に報告する。



デイサービスセンターでの交流

③地域活動チャレンジカードの活用

- ・地域の諸活動への小・中学生の参加を促進し、地域を愛する心やボランティア精神を育てることを目的に毎年実施する。
- ・市内小学校（3～6年）及び中学生（全員）を対象に配付し、地域活動やボランティア活動に参加した児童・生徒のカードに実施代表者サインか捺印をする。本事業もこの対象としている。
- ・年5回以上参加した児童・生徒を表彰し、記念品を贈呈する。



チャレンジカード

2 アンケート結果・評価等（奉仕活動を体験する機会を提供していただいた各施設の感想）

○デイサービスセンター

- ・暑い中、浴室清掃を頑張ってくれました。
- ・中学生らしく元気に取り組んでくれ、特にレクリエーション時には楽しく場を盛り上げてくれました。

○保育園

(昭和東・昭和中央・若竹幼児教育センター)

- ・笑顔を絶やさず子どもたちに優しく接して遊んでくれました。
- ・ボランティア活動ということでインターンシップと異なり良い活動だと思います。
- ・子どもに関わる仕事も含まれていますので明るく元気な生徒を歓迎します。
- ・天候が雨だったので内容を変えましたが、何事にも嫌がらずチャレンジしてくれたのは良かったと思います。

○ブルーメッセあきた

- ・すべての生徒があいさつもしっかりでき、まじめにやってくれました。来年もまたお願いします。



ブルーメッセ募金活動手伝い



公民館事業「元気塾」での交流

3 成果・課題・今後の方向性

(1) 成果

- ・地域の施設での奉仕活動を通して地域との結び付きや自主性のある子どもに育つための一助となる。
- ・キャリア教育的な面もあり、積極的に参加することにより、将来の仕事に対する理解や学習意欲の向上にもつながると思う。

(2) 課題

- ・事前に申込をしても当日来ない生徒がいるなど多少問題もあるが、施設からは当日の参加人数により奉仕作業の内容を決めていただいている。
- ・多くの申込がある作業や申込の無い作業もあるが、施設にはその旨を理解していただいて実施している。

(3) 今後の方向性

- ・市と関わりのある施設に依頼しているため協力が得やすいので、今後も引き続き事業を継続し、作業内容についても充実したものにしたい。



保育園での保育手伝い

参考にしたい点

- 公民館の強みを生かして市の他施設への協力依頼と連絡調整を図り、学びと体験の場を提供している。
- キャリア教育への支援という面で学校にとっても有意義な事業である。
- 地域活動チャレンジカードにより、児童生徒の参加意欲の向上を図るとともに、市・学校・地域全体で、他の事業や地域の活動と連携した取組を行っている。

V I Tの活用につながる講座や取組①

にかほ市・金浦公民館 仁賀保公民館 象潟公民館

パソコン講座 はじめましょう！1・2・3！（初級編・活用編）

1 事業の概要

（1）事業の趣旨・ねらい

中高年層を対象としたパソコン教室を開催し、基本的なパソコン操作や更に進んだ学習への意欲を高める。

（2）事業内容・プログラム

<初級編>

2時間30分／回×8回コース

金浦公民館（午前・午後の部）定員12名×2コース

仁賀保公民館（午前の部のみ）定員15名

象潟公民館（午後の部のみ）定員15名

◆メニュー

- ・パソコン操作の基本 　・ファイルの管理
- ・ワードの基本 　・ワードでハガキ作成
- ・インターネットの活用
- ・電子メールの使い方

<活用編>

2時間30分／回×5～6回コース

象潟公民館（5回）定員15名

仁賀保公民館（6回）定員15名

◆メニュー

- ・iTunesの使い方 　・デジカメの写真整理
- ・エクセルの基礎 　・エクセルで住所録作成
- ・暑中見舞い、年賀状を作ろう
- ・ワードの基本と活用（仁賀保公民館のみ）

市教委所有の同一仕様のパソコンとテキストを用い、各公民館で原則同じ内容の講座を行っている。高齢者を中心に希望者が多く人気の講座となっている。受講料は1講座100円、初回はテキスト代1,000円の負担としている。

指導に当たる講師は、生涯学習奨励員（1講座5,000円）、サポートとして公民館職員と市ITアドバイザー各1名の3人の態勢で進めている。



2 アンケート結果・評価等

主に初心者からは、「詳しくゆっくり教えてもらい分かりやすかった」「はじめてパソコンに触って感激した。楽しく学ぶことができた」「エクセルの使い方をもっと知りたい」など肯定的な感想があった。

一方、「年賀状を自分で作りたいのでもっと教えてほしい」「簡単すぎてもっと難しい内容を受講したかった」というような意見や要望があった。

3 成果・課題・今後の方向性

(1) 成果

- ・パソコンを買ったが使っていなかった受講者が受講後に年賀状にチャレンジするなど、受講者のパソコン習得に関する意欲を強くすることができている。
- ・翌年度の講座へ、リピート受講を希望する受講者も多く、毎年キャンセル待ちの受講者が多数出ているほど人気の講座となっている。

(2) 課題

- ・毎年のように受講する受講者がおり、キャンセル待ちの新規受講者が受講できないケースがある。リピート受講の理由は、「受講後に活用せずに忘れてしまう」ためと考えられ、リピート受講者と新規受講者の優先順位について一考の余地がある。
- ・民間のパソコン教室と競合する点があり、民業圧迫の可能性があるため、中級者向けの内容についての要望はあるが、応えることができない。

(3) 今後の方向性

- ・今後についても「パソコン習得の意欲向上」を目標とした「中高年層向け初心者講習」として継続させていきたい。



参考にしたい点

- iTunes 等新しい製品やサービスに対応した内容を取り入れることで、受講者が学んだ成果を実際の生活に生かしたり、さらなる興味やニーズの掘り起こしにつながるよう配慮している。
- 生涯学習奨励員を講師にすることで、人材の活用が図られるとともに奨励員のスキルアップにもつながっている。
- 市教委所有の機器を各公民館に持ち込むことにより、偏りのない講座を運営している。

V I Tの活用につながる講座や取組②

湯沢市・湯沢生涯学習センター

初級者パソコン教室（ワード編・エクセル編）

1 事業の概要

(1) 事業の趣旨・ねらい

パソコンが社会に普及したことにより、職業能力の獲得のみならず、便利な生活のためにパソコン操作を学ぼうとしている人は年代を問わず増えている。

パソコン教室を実施し、初心者でも億劫にならずにパソコンを操作し、教室終了後も受講者がパソコンを使いこなしていけるようになる一助になりたいということでこの事業を実施している。

(2) 事業内容・プログラム

<ワード編 120分×5回 継続講習>

- ①PC基礎と基本操作、文字入力
- ②文字変換、文章入力
- ③文字装飾
- ④ワードアート、図形の挿入
- ⑤イラスト、表の作成

今回の受講者は、ほとんどが50代、60代の女性の方々であった。自宅にパソコンがあり、自分でパソコンを使いこなしたいという方で、皆さんまじめに受講していた。講師の方が休憩を伝えても、ほとんどの方がキーボードに向かっていた。

<エクセル編 120分×5回 継続講習>

- ①エクセルの基本
- ②書式設定（罫線・セルの設定）
- ③表作成
- ④家計簿作成（四則演算、データ入力）
- ⑤家計簿作成（数式・関数入力、シート複製）

受講者全員が同じレベルではないことから、タイピングに時間を要する受講者が多く、サポートが一人では大変なため、センター職員も数回サポートした。

<受講料> 2,000円

紙等の消耗品、講師謝金一部負担

<講師> 外部講師（パソコン支援NPO）

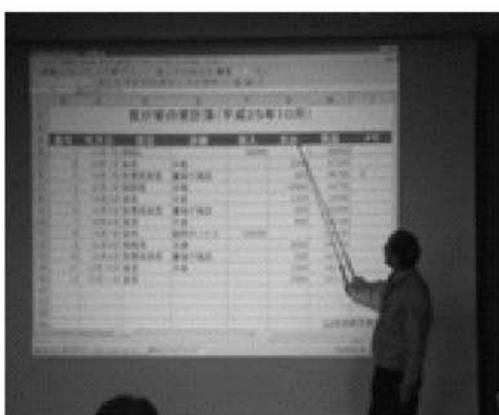
<講師謝金> 50,000円（1日 10,000円×5回）



ワード編



熱心な受講者の皆さん



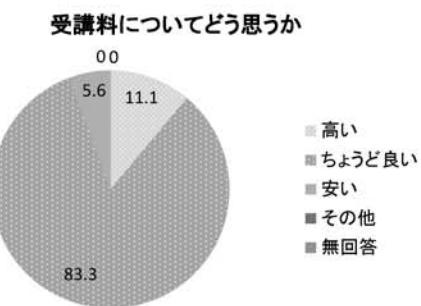
エクセル編

2 アンケート結果・評価等

アンケート結果では、自宅にパソコンがある方の場合は、やはり初めて会場に来て触る人とは多少差があるようと思われる。

また、もう一度パソコン教室に参加したい人が多いというアンケートの結果から見ると、年齢、男女にとらわれないで、常に向上心を持って参加している方が大半と考えられる。

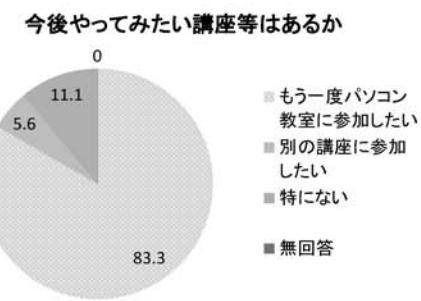
受講期間（週1回）、受講時間（2時間）、受講料は概ね妥当という意見が多かった。



3 成果・課題・今後の方向性

(1) 成果

- 受講生の皆さんには、最初は年齢等で受講についていけるか多少は不安があるようだが、講師の先生の熟知した教え方により、継続性、慣れの繰り返しという内容に理解を示し、パソコンに興味を持ち機器に慣れ親しんでいただいている。こういう機会を提供して一定の成果が上げられているものと思われる。



(2) 課題

- 初心者の受講生20名に対し、講師1名、スタッフ1名では少し大変かなという場面もあり、受講者数についてもう少し絞るべきか検討したい。
- 講師の先生からは、OSが古くて使いづらいとのことなので、端末機も庁舎建設に伴い情報統計班から譲り受ける等の対応が必要と想定される。（平成26年度 市役所の端末を譲り受け、個人情報を抹消したのち、Windows7【ワード・エクセル】を新たに入れ使用）

(3) 今後の方向性

- 当生涯学習センター事業ばかりでなく、各団体（シルバー人材センター55才以上）の無料講習、当市産業経済部まるごと売る課主催のパソコン講習会等、重なる部分もあるが、慣れ親しむための第一歩の提供の場としては、これからも必要であると考えている。

参考にしたい点

- 講座を有料にし、受講料の一部を講師謝金に充てることにより指導と内容の充実を図っている。
- 内容に対する満足度、料金の妥当性等も受講者からアンケートをとり検証している。受講者は有料でも十分満足していることから、講座の運営方法として参考になる。

V ITの活用につながる講座や取組③

仙北市・田沢湖公民館

パソコン教室

1 事業の概要

(1) 事業の趣旨・ねらい

インターネットや文書作成、更にはデジカメの画像編集など、今や日常生活に欠かせないアイテムとなりつつあるパソコンの機能を理解し正しく使ってもらえるよう、基礎から各種応用テクニックについて丁寧に指導する。また、周辺機器とのトラブルやパソコンの不具合など、日頃困っていることについても解決方法など可能な範囲で個別に指導する。

(2) 事業内容・プログラム

本事業は10年ほど前から、神代・生保内中学校の2会場で実施していたが、近年市内各所で同様の教室が開催されるようになり、平成24年度を最後に神代中学校1会場での実施とした。

実施に際しては、一般人（受講者）が出入りするため学校側へは事業の趣旨と留意点等を入念に説明し理解を得た。

<講師：市内IT関連会社>

<内容：全6回>

①パソコン基礎編（初めてのパソコン操作）

聞き慣れない専門用語に困惑する人が多かったものの、自宅のパソコンの説明書を読んでも分からぬが、講師の（言葉による）説明でよく理解できたと喜ばれた。受講者からの問い合わせが多く、職員2名がサポートに付き全ての時間で個別の対応に当たった。

②文書作成編（キーボードの仕組と簡単な文章の入力練習）

ワープロを使っていたという人が多くスムーズに進んだ。

③インターネット編

ヤフーのホームページをもとにインターネットの検索方法などを説明。

④セキュリティ編

悪意のあるウェブサイトやバナー、ネット犯罪など実例をもとにネット社会に隠れた危険性と対策について説明。具体的には、懸賞等について、安易に個人情報を発信しないことや、マイクロソフト社の無料セキュリティソフト等の活用について説明した。

⑤デジカメ撮影編

人物や静物など被写体を美しく撮影するテクニックやカメラの向きを変えるだけで写り方が大きく変わることなどを指導した。

⑥画像編集編（パソコンに取り込んだ画像の編集と活用）

画像の明るさや色合い、トリミング等の技法を、手紙やハガキ、資料などに画像を添付するなど具体的な場面での活用を通して指導する。新たな趣味として、デジカメ写真を始めたいという受講者が多かった。



市内中学校PCルームでの開催



共通の機器・環境での開催が可能

講座修了時に、公民館職員が事後のサポートに対応することを説明する。相談者にパソコンを持参してもらうか、可能な内容であれば自宅へ訪問して対応することにした。実施日は、双方の都合により決定し、主に館長が対応に当たった。

2 アンケート結果・評価等

- ・聞いたことのないカタカナ用語を理解するのが一番難しいが、意味が分かれば問題なく続けられると思う。
- ・今回学んだことをもとに家族とパソコンを上手く活用していきたい。分からぬときは公民館がサポートしてくれるので安心した。
- ・今回いただいた修了証を励みに今後も新しいことに挑戦していきたい。
- ・親切丁寧な指導で高齢者でも分かりやすかった。でも使わないと直ぐ忘れしまうようで不安があるので、できるだけ毎日パソコンに触れるよう心がけたい。
- ・昔のフィルムカメラと違って、デジカメはコストがかからない。だから沢山写真を撮影して良い物だけ残せばいいと思った。
- ・知りたい情報が簡単に手に入ることに驚いた。便利な反面、マナーとルールを間違うと大変なことになりかねないこともわかった。気を付けたい。
- ・学校のパソコン室で勉強させて貰ったことに感謝したい。また開催してほしい。



修了証を持って記念撮影

3 成果・課題・今後の方向性

(1) 成果

- ・今回21名の受講者を迎えて6日間実施した。それぞれ職場や家庭、趣味などパソコンとの関わり方は違っても、今後の活用に向け基本となる知識を習得する良い機会となった。
- ・困った時は、すぐに公民館へ連絡をもらえれば今後もサポートしていく旨を説明し、公民館との絆を深めた。

(2) 課題

- ・夕方の実施により、学校職員に終了時刻まで残ってもらうことになった。

(3) 今後の方向性

- ・設備を有する他の機関で市民を対象にした同様の講座を実施していることから、今後は、パソコンサポート講座として、個別に対応する事業へ方向転換する。

参考にしたい点

- 講座修了後も、公民館職員が受講者のサポートに努めることにより、受講者が意欲的に学習の成果を生かすことにつなげている。
- インターネットセキュリティについて扱い、ウィルスや情報漏洩、ネット犯罪の危険性など、実際に活用する上で留意すべき現代的な課題についても学ぶ内容になっている。
- 市内の公立学校の施設・設備を効果的に活用し、講座を開催している。準備作業が簡単であり、施設のネットワークを活用できるため効率的に指導ができる。

I T の活用につながる講座や取組④

北秋田市・沢口公民館

パソコン講座

1 事業の概要

(1) 事業の趣旨・ねらい

高齢者（60歳以上対象）が、パソコンに親しみながら基本的な操作技能を習得する。

(2) 事業内容・プログラム

平成22年に60歳以上でパソコンに触ったことのない人を対象に公民館便りで募集したところ、10名程の応募があり、「ITサポートたかのす」より講師を招いてマウスの動かし方から始め、年末には年賀状作りまで行った。

23年、24年には館長が講師となり、疑問点をもち寄り解決していく方法で進めた。デジカメからの取り込み方法や文書への画像の取り込み方、差し込み文書、Tシャツプリント等色々なことに取り組んだ。

公民館定期講座として「ITサポートたかのす」より講師を招いて25年度は基礎とワード、26年はエクセルで関数を使っての家計簿作り等を行っている。

講師の呼びかけでサポーターとして「ITサポートあおもり」の方々も来てくれた。

<25年度プログラム>

1回目 CD-Rのセット、フォルダ・ファイルを開く、文字入力、ワードアート、イラスト挿入、ファイルの保存

2回目 暑中見舞いのハガキ作成

3回目 図形でお絵かきに挑戦

4回目 ワードでカレンダーに挑戦

5回目 デジカメから画像取り込み

6回目 年賀はがき裏面作成

7回目 年賀はがき宛名面作成（ハガキ作家ソフト）

8回目 スマートアートで簡単な連絡網作成

9回目 賞状の作成

<26年度プログラム>

1回目 エクセルの仕組、入力方法及び計算式

2回目 関数について

3回目 グラフ作成及び各設定並びに修正等

4回目 家計簿作りのためのデータ入力及び表作り

5回目 家計簿作り計算式等の入力

6回目 年賀はがき宛名差し込み

エクセルで住所データ入力

ワードの年賀はがきにデータを差し込む



高齢者・初心者が対象です



自分のパソコン持ち込みです



デジタルカメラにも挑戦

2 アンケート結果・評価等

「雲の上の存在であったパソコンが使えるようになって楽しい」「パソコンはどんなことでもできることに驚いた」等、実際に機器に触れ作業や操作ができたことへの喜び、驚きなどを感じた方が多かった。休憩時間には各人の手作りお菓子等が出され、楽しいコミュニケーションの場にもなった。



手作りお菓子の差し入れ

3 成果・課題・今後の方向性

(1) 成果

- ・始めたころはマウス操作も出来なかつた人たちが、ローマ字打ち、画像取り込み、文字の加工等色々な応用操作に挑戦し、楽しみながら行うようになった。
- ・受講者たちとのコミュニケーション、交流が深まった。
- ・全員が自分専用のパソコンを購入した。
- ・解らないところはお互いに教え合うようになった。



受講者からスイカの差し入れ

(2) 課題

- ・月1回の講座では1か月後の講座になると忘れてしまう人もいるので、最低月2回は行いたい。

(3) 今後の方向性

- ・専門の講師をお願いしたいが、公民館で講師料を支払っている定期講座は2年で終了となるので、今後の継続方法を考えていきたい。
- ・ある程度できるようになった方には、初心者に対してのサポーターをしてもらいながら、できるだけ多くの人がパソコンに楽しみながら携わるようにしていきたい。

参考にしたい点

- 講座受講者を次の講座のサポーターとして活用しようとする構想もあり、学びの成果を生かす取組として注目される。
- 外部講師を委託する、自分のパソコンを持ち寄り職員が指導する等、年度の予算に合わせて柔軟な対応で講座を継続している。予算や機材の確保が困難で、IT関連の講座や取組が減っている中、貴重な実践例である。

第4章 事業の成果と課題

1 成果

(1) 当該施設における実践力の強化と事業の定着

今回実施した行動人連携学習プログラムは、連携した当該施設での新規事業であり、それぞれの施設における人材の育成及び地域の活性化を図る事業の開発につなげることができた。能代市では、市民活動グループ主導により、まちおこしについて考え実践していく高校生と若い世代を育成する組織が形成された。由利本荘市では、公民館主導によるボランティアの養成と活用を図る事業化が実現した。羽後町では、住民主導による地域コミュニティの再生と活性化を図る取組が進んだ。それぞれの連携機関や行動人と事業成果を分析・検討して次年度以降も取組の継続を決めており、当該施設の主催事業として定着を図ることにより実践力の強化につながった。特に、羽後町の事例は前年度からの継続であり、学びが行動を生み、行動することによってまた新たな学びや行動に発展するという知と行動の循環が確認できた。

(2) 連携・協働のモデルの提示

行動人連携学習プログラムの展開において、多様な連携と協働の動きが見られた。

能代市では、今回連携した市民活動支援センターの働きかけにより、主催したまちおこしNPOだけでなく、地域で実際に活動している行動人が集まり、高校生とのワーキングと活動を支えた。特に、高校生の活動の場としていくつかの地域活動のイベントが受け皿として提供され、今後の活動の広がりを保証するものとなった。

由利本荘市では、公民館運営ボランティア養成プログラムで育成した人材が直接当該公民館事業の協働者として関わることができた。また、他市町村で活動している行動人を講師にしたり、行動人と一緒に活動を行ったりという連携・協働が生まれた。

羽後町では、昨年の学習を生かし事業の協働者として高校生を積極的に位置付けた。学習会をサポートしたり、伝統芸能の継承者として行事に参加したり地域の人材としてプログラムに参画したりした。地域の行事である「雪まつり」は、コミュニティの構成団体による協働の成果でもあり、事業継続の鍵である。

今回連携した能代市市民活動支援センターは、能代市市民活動推進課管轄であり、行政部門の機関との連携により協働者を多く取り込むことができた。由利本荘市西目公民館でも、次年度以降の傾聴ボランティア養成講座の実施にあたり、市民福祉部との連携を図り講座の開催と活動の場の提供に努めることとしている。事業推進にあたり教育委員会、公民館という枠にとらわれない連携や協働を考え実践するきっかけとなった。

このように、本学習プログラムでは、地域の人的、社会的資源との「連携・協働」の有用性を検証し成果として提示できた。今後の生涯学習や社会教育の推進において「連携・協働」がより重要となることを示唆するものであり、今後も啓発の柱として位置付けていきたい。

(3) 行動人Webサイトの活用

生涯学習奨励員を中心に、市町村から行動人の情報が多く寄せられるようになった。また、以前紹介した行動人からの情報提供や自ら掲載を希望する方も見られ、行動人への関心の高まりや広がりが見られる。情報提供者や掲載された方々からは、行動人として紹介されることで本人や活動団体のモチベーションが高まるとともに、市町村の情報発信にもつながるという評価が寄せられている。これらの情報や独自取材により、今年度の行動人Webサイトでの紹介数は147件、紹介累計4万人を達成した。

サイトの情報を見て、公民館講座での講師依頼や、社会教育関係講座にパネリストとしての参加依頼があるなど、行動人Webサイトの情報を生かし、行動人が人材として活用される事例もみられるようになった。

(4) 行動人交流集会による相互啓発とネットワーク形成の促進

行動人交流集会では、生涯学習・社会教育関係者と行動人に参加を求める、本事業の事例や行動人の活動の紹介、協議を通して学びと行動を協働に結び付ける方策について考える機会を提供した。参加者は、行動人の多くが自分の活動を認知してもらい更に活動の輪を広げて地域に貢献したいという要望をもっていること、生涯学習や社会教育の分野で地域活性化や人材育成を意図した取組が求められていること、そのためには行政と行動人の連携と協働の促進が望まれることなどを相互に理解し合った。

また、参加した行動人の多くは、他の行動人や活動に対して非常に関心が高く、積極的に情報交換や交流を深めていた。

このように、行動人交流集会は、生涯学習・社会教育関係者と行動人、行動人同士を相互啓発し、ネットワークを広げる効果的な手段であった。

(5) 特色ある事例の収集

昨年度の調査で、取り組んでいる割合が低かった5つの分野について追調査を行い、貴重な実践の収集ができた。それらは、本報告書第3章にまとめた。いずれも、企画や運営上の課題を抱えながらも公民館としての役割を認識し、工夫しながら実践されているものばかりである。他の公民館での新規事業の立ち上げや、既存事業への応用等に活用を促したい。そのため市町村生涯学習課を直接訪問し、当該課及び管轄社会教育施設での活用を依頼する。また、次年度の当センター主催社会教育関係職員基礎講座や実践講座で参考事例として活用する。

2 課題

(1) より正確な取組の実態把握と啓発対象の拡充

本事業のねらいは、学んだことを行動に結び付け社会に貢献しようとする気運の醸成と環境づくりを推進するため、市町村や公民館を啓発し、実践力を強化することである。そのため、実態調査や啓発は、推進の核となる市町村の教育委員会及び生涯学習・社会教育関係者を対象としてきた。ところが、本年度の実践や追調査の現状から、学びを行動に生かす取組が市町村の他部局や指定管理団体で行われている場合があることなどが分かつてきた。指定管理に関しては、今後移行する自治体が増えると予想される。そこで来年度は、公民館の調査を再度行い変容を見届けるとともに、公民館以外での社会教育実践状況に関する調査も行い市町村の現状をより正確に把握したい。また、啓発の対象も実態に応じて拡充し県全体での取組となるよう牽引したいと考えている。

(2) 連携・協働の意識の高揚と拡充

上記のように、学んだことを行動に結び付け社会に貢献しようとする気運の醸成と環境づくりを県全域で進めていくためには「連携・協働」の意識を更に高め、具体的な動きを促進させたい。そのための手立てとして行動人交流集会の地域開催や、当センター主催の職員研修の対象を市町村首長部局にも広げることなどが考えられる。奇しくも今年度から、生涯学習課及び当センターが、地域活性化を図るための支援を担うため県と市町村首長部局で構成する「地域コミュニティ政策推進協議会」の一員となった。この組織を活用することで今まで以上に広域的な事業の周知と活用も期待できる。地域活性化の支援に「学び」や「行動人との連携・協働」を位置付け、部局を超えた多様な連携・協働を具現化していきたい。

おわりに

秋田県生涯学習ビジョンの実現に向け、「学んだ成果を行動に結び付ける」気運の醸成と環境づくりを目指し、行動人連携学習プログラムの開発と公民館等の特色ある事例収集を柱に今年度の調査研究を行ってきた。

県内3地域で展開した行動人連携学習プログラムでは、それぞれのプログラムに関わった行動人との協働により事業が活性化され、当該施設の実践力の向上と地域活性化につながる動きを創出できた。また、それぞれのプログラムは、原型を維持しながら次年度以降も継続を決めており、当プログラムで育成された行動人が事業の協働者として加わることで、「知と行動の循環」の形成が期待できる。特に羽後町では、2年間にわたっての実践の積み上げから、学びが行動を生み、行動することによって学び、また新たな学びや行動へ発展する「知と行動の循環」の定着が確認でき、学習モデルとして確立できた。能代市、由利本荘市も次年度の取組を支援しながら、行動人の育成と活用を図る学習プログラムのモデルとして確立したい。

交流集会は、「協働」について考え、実践につなげるための効果的な手段と言える。行政職員と地域で活動する人々が同じテーマで協議し交流が深められた。特に行政職員には、人材育成や地域活動、地域活性化を願う住民のニーズを直接聞く機会となり、今まで以上にそれに応じるための生涯学習・社会教育の必要性が実感をもって受け入れられたと考えている。参加した行動人にも自分の活動を紹介したり、他の行動人の活動を参考にしたりする場となり、モチベーションを高め、ネットワークの形成を図る機会となった。

公民館の特色ある事例収集では、依頼した17施設のご協力に感謝したい。詳細な情報と画像等を提供いただき、具体的に見える形で取組内容を提示できた。講座や取組のおもしろさや魅力もあるが、学びの成果を生かすという点でも参考になる事例である。

行動人Webサイトにより、行動人の紹介累計が12月17日をもって4万人を達成した。昨年と比べアクセス数が伸び、市町村からの紹介事例も増えるなど行動人への関心は確実に高まっている。また、行動人として紹介されたことで新たに活動への協力や参加を申し出る人が現れたり、公民館講座の講師を要請されたりすることもあり何よりの成果と捉えている。

今年度の調査研究は、文部科学省の委託事業となったことで、踏み込んだ実践ができ、また進展があった。得られた成果や課題は、次年度の当センター主催生涯学習・社会教育関係者研修や実践講座等で提示したり、内容の工夫に生かしたりすることで、更なる啓発へとつなげることができるであろう。

最後に、本年度の調査研究事業に協力いただいた各市町村教育委員会や公民館関係職員、まちおこしNPOオモシエナ、能代市市民活動支援センター、能代市内県立高等学校、由利本荘市西目公民館、県立西目高等学校、県立仁賀保高等学校、県立羽後高等学校、堀回地区コミュニティ、羽後町教育委員会、等関係各位に感謝申し上げたい。本報告書では、行動人連携学習プログラムの開発事例及び、各公民館等の社会教育施設からお寄せいただいた事例を掲載した。参考になる実践例が数多くあり、取り組む姿勢や熱意が伺える点も興味深い。是非、学ぶべき事例はないか、取り入れられる考え方や方法はないかというような視点でご覧いただき、ご活用いただければ幸いである。

調査研究委員

委員長	夏目由美子	秋田県生涯学習センター所長
副委員長	原義彦	秋田大学教育文化学部准教授
委員	加藤秀尚	秋田県公民館連合会事務局長
委員	昆麻里子	秋田県教育庁生涯学習課主任社会教育主事
委員	鈴木智王	秋田県教育庁中央教育事務所社会教育主事

運営委員

委員	吉田理紗	生涯学習の実践者（秋田NPOコアセンター）
委員	武内伸文	生涯学習の実践者（SING代表）
委員	須田タヅ子	センター利用者代表（カレッジ受講者）
委員	鎌田照平	市町村教育委員会等の代表（秋田市中央公民館館長）
委員	森田千技子	社会教育団体代表（秋田県生涯学習奨励員協議会・会長）
委員	飯塚雅子	マスコミ関係代表者 (秋田ケーブルテレビコンテンツ企画部営業部長)
委員	片倉健	公募の応募者
委員	渡部昌平	公募の応募者（秋田県立大学准教授）

事務局

事務局長	野口俊温	秋田県生涯学習センター副所長
事務局員	高橋英	秋田県生涯学習センター副主幹（兼）班長
事務局員	高木寛	秋田県生涯学習センター社会教育主事
事務局員	岩井学	秋田県生涯学習センター社会教育主事
事務局員	深浦真人	秋田県生涯学習センター社会教育主事補

平成26年度文部科学省委託事業

「公民館等を中心とした社会教育活性化支援プログラム」
行動人連携学習プログラム開発事業

知と行動が結び付いた循環型社会構築に向けた
公民館事業及び運営の在り方に関する調査研究
調査研究報告書

編集・発行 秋田県生涯学習センター
〒010-0955 秋田県秋田市山王中島町1-1
TEL 018-865-1171 FAX 018-824-1799
E-mail sgcen002@mail2.pref.akita.jp
URL : <http://www.pref.akita.lg.jp/lifelong/>

発行日 平成27年3月2日

